

第13回

学生生活調査報告書

STUDENT LIFE NOW

大学
院生



平成28年3月

長崎大学

まえがき

「第13回学生生活調査報告書」をお届けします。本調査の実施に当たっては、より多くの学生のニーズや要望が把握できるように、各学部・研究科で配付、回収の工夫をして頂いた結果、学部生が69.7%（第10回41.6%，第11回67.1%，第12回70.6%），大学院生は70.5%（第11回69.2%，第12回74.9%）の高い回収率となりました。ご協力ありがとうございました。

本学では、より学生の皆さんからの要望に応えていくために、調査項目の精査を行うとともに、2年に1回の調査を実施しています。また、今回の調査では、前回（第12回）の調査結果をもとに「大学として対応すべき課題」として設定した「支援・改善事項」の達成状況の検証を行うとともに、次期中期計画期間中における支援事項選定の資料とすることも調査の大きな目的です。

支援・改善項目のハード面においては、構内施設の改修等が進む中、講義棟（講義室・トイレなど）及び体育施設（体育館・グラウンド）の満足度については、一定の評価があるものの、授業・カリキュラムに対する満足度は、学部生全体で6割弱に留まるなど改善の余地が見られます。また、学生相談体制については周知の不足が見受けられるため、情報伝達手段の改善に取り組みながら周知徹底を行う必要があります。

学生委員会では、これら調査結果の分析を行い、対応すべき支援・改善事項を選定し、ハード、ソフト両面において、より高い満足度が得られるように引き続き学生の実態やニーズに合致した支援・改善を行っていきます。

本学は三つのキャンパスに分かれており、各学部・研究科の歴史、学生数をはじめ、立地、インフラの整備状況が異なっていますが、各学部・研究科においては、それぞれの結果を検討し、実態の把握と改善、支援事項選定の資料として活用くださるようお願い致します。

学部生、大学院生の質を保証した上で実社会に送り出すことは、本学の責務であり、そのために学生生活の質をさらに高める必要があります。本報告書を全学生の修学環境改善のための基礎資料としてご活用いただければ幸いです。

本報告書は、学生委員会の学生生活調査専門委員会のメンバーをはじめ、多くの方々のご尽力により作成されたものであり、本調査の実施、報告書の作成にご尽力いただいたすべての方に心より感謝いたします。

平成28年3月

学生委員会委員長
堀内伊吹

目 次

まえがき

調査の概要	1
A. 基本事項について	3
B. 生活状況について	6
C. 健康について	14
D. 福利厚生施設について	19
E. キャンパス全般について	22
F. 入学・修学について	26
G. 学生相談体制について	31
H. 大学生活について	35
I. 進路・就職について	39
学生生活調査票	44
調査の組織	50

あとがき

学生生活調査の概要

1. 調査の目的

学生生活調査は大学が学生の生活状況や要望を把握し、それに基づく支援・改善事項を計画・実行することで学生を取り巻く環境を整備し、学生生活を質的に向上させるために行うものです。

2. 調査の対象および方法

平成 27 年 10 月 1 日現在、本学に在籍する全大学院学生 1,505 名（ただし、休学者等を除く）を対象として、学務班および各研究科大学院係を通して調査票を配布し、所定の期日までに回答を提出してもらいました。

*在籍学生数（平成 27 年 10 月 1 日現在） () は休学者等で内数

	教育学研究科		経済学研究科		工学研究科			水産・環境科学総合研究科		
	修士	専門職 学位	博士 前期	博士 後期	博士 前期	博士 後期	博士課程 (5 年一貫)	博士 前期	博士 後期	博士課程 (5 年一貫)
学生数	3 (0)	61 (2)	34 (5)	14 (3)	448 (4)	52 (2)	17 (2)	117 (6)	49 (4)	15 (0)
男	2	37	20	10	402	41	17	82	30	9
女	1	24	14	4	46	11	0	35	19	6

生産科学 研究科	医歯薬学総合研究科				国際健康 開発研究科	合 計	
	修士	博士 前期	博士 後期	博士 課程			
博士 後期	15 (6)	41 (3)	70 (1)	27 (1)	530 (90)	12 (1)	1,505 (130)
	14	10	41	14	349	4	1,082
	1	31	29	13	181	8	385

3. 調査の時期

平成 27 年 9 月 28 日（月）～10 月 9 日（金）

4. 調査の内容

- | | |
|----------------|---------------|
| A. 基本事項について | G. 学生相談体制について |
| B. 生活状況について | H. 大学生活について |
| C. 健康について | I. 進路・就職について |
| D. 福利厚生施設について | |
| E. キャンパス全般について | |
| F. 入学・修学について | |

5. 調査票の回収状況

大学全体での回収率は70.5%で、前回より少し回収率が下がりました。課程別の回収率は、修士課程・博士前期課程及び専門職学位課程で合わせて8割を超えましたが、博士後期課程、博士課程、博士課程（5年一貫）は、5割程度でした。また、男女別でも共に高い回収率で7割程度となっています。

*所属研究科別

	教育学 研究科	経済学研究科		工学研究科			水産・環境科学 総合研究科	
	修士 専門職学位	博士 前期	博士 後期	博士 前期	博士後期 博士課程 (5年一貫)	課程 不明	博士 前期	博士後期 博士課程 (5年一貫)
対象数	62	29	11	444	65	—	111	60
回収数	55	27	6	360	36	3	85	31
回収率	88.7%	93.1%	54.5%	81.1%	55.4%	—	76.6%	51.7%

生産科学 研究科	医歯薬学 総合研究科			国際健康 開発研究科		無回答 ・ その他	合計
博士 後期	修士 博士前期	博士後期 博士課程	課程 不明	修士	課程 不明		
9	107	466	—	11	—	—	1,375
3	99	250	1	10	1	3	970
33.3%	92.5%	53.6%	—	90.9%	—	—	70.5%

*課程別

	修士課程・博士前期課程 専門職学位課程	博士後期課程 博士課程 博士課程（5年一貫）	無回答	合計
対象数	764	611	—	1,375
回収数	640	329	1	970
回収率	83.8%	53.8%	—	70.5%

*男女別

	男	女	合計
対象数	990	385	1,375
回収数	702	268	970
回収率	70.9%	69.6%	70.5%

*これまでの学生生活調査回収状況

	調査対象	在籍数	対象者数	回収数	回収率
第11回	全研究科大学院生	1,407	1,295	896	69.2%
第12回	全研究科大学院生	1,457	1,345	1,007	74.9%
第13回	全研究科大学院生	1,505	1,375	970	70.5%

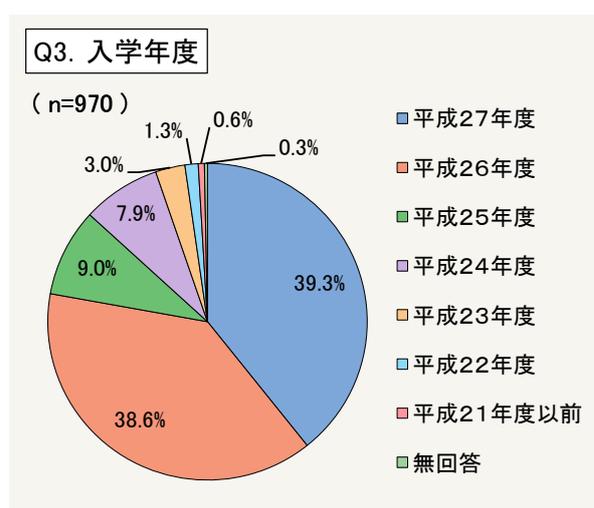
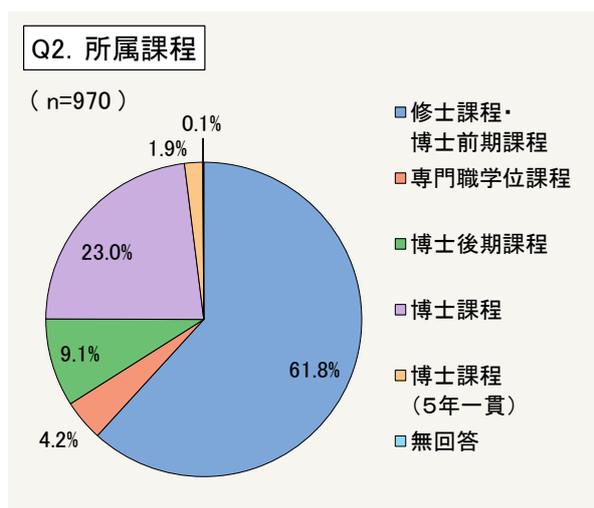
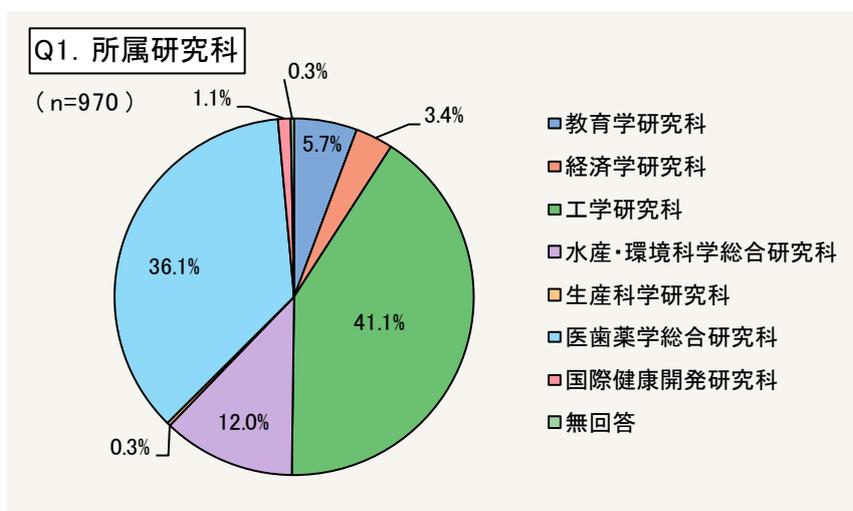
A. 基本事項について

Q1. あなたの所属研究科は？

Q2. 所属課程は？

Q3. 入学年度は？

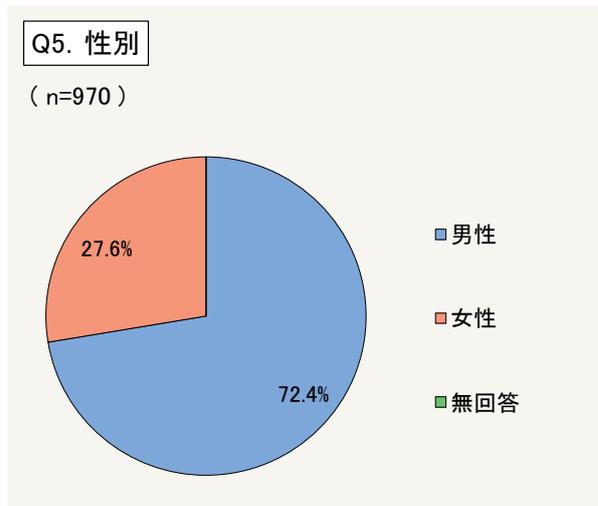
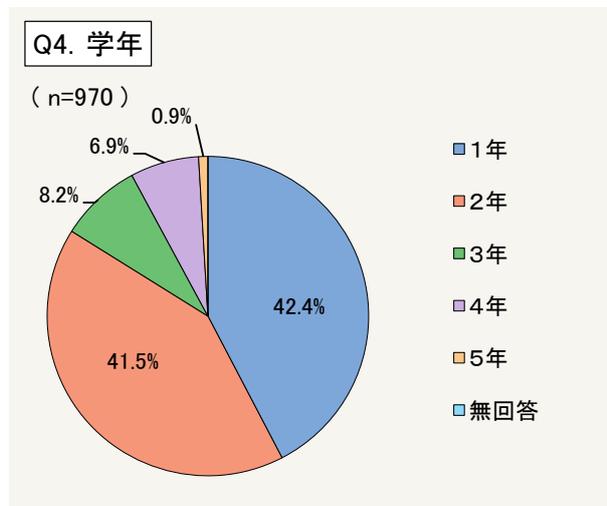
比率が高いのは「工学研究科」の41.1%、次いで「医歯薬学総合研究科」の36.1%と、前回(それぞれ36.2%、38.6%)と比較して順位が逆転しています。「水産・環境科学総合研究科」の12.0%、「教育学研究科」の5.7%、「経済学研究科」の3.4%、「国際健康開発研究科」の1.1%、「生産科学研究科」の0.6%の順でした。所属課程別で見ると、「修士課程・博士前期課程」が61.8%であり、「博士課程・博士後期課程」と「博士課程(5年一貫)」を加えたものが全体の3分の1強を占めています。入学年度別の内訳は、平成27年度が39.3%、平成26年度が38.6%、平成25年度が9.0%、平成24年度が7.9%、平成23年度が3.0%、平成22年度が1.3%、平成21年度以前が0.6%、「無回答」が0.3%となっています。



Q4. 学年は？

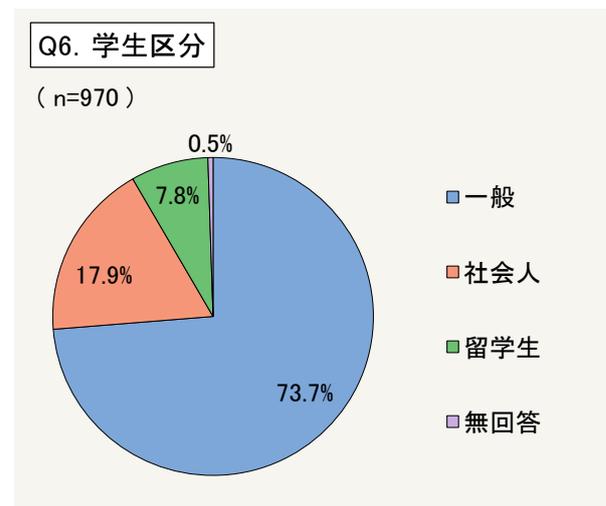
Q5. 性別は？

回答者は、修士課程の「1年」(42.4%)と「2年」(41.5%)が合計で80%以上を占めました。全体の男女比を見ると「男性」が72.4%、「女性」が27.6%で、前回とほぼ同じ割合です。



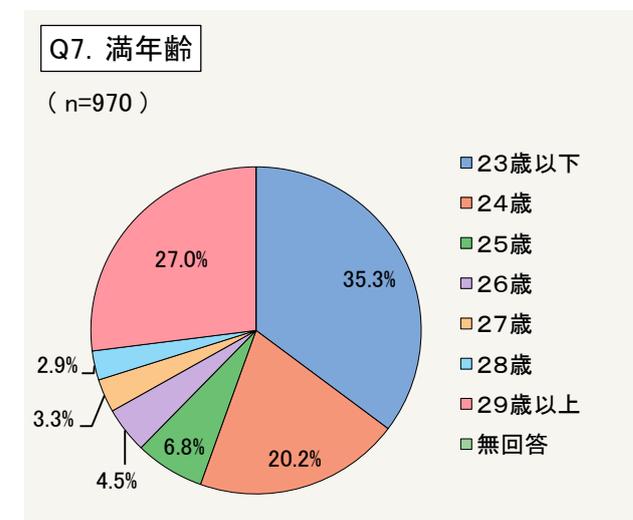
Q6. 学生の区分は？

また、回答者における社会人と留学生の割合を見てみると、「一般学生」が73.7%に対して、「社会人」が17.9%、「留学生」が7.8%という結果となっており、前回(それぞれ20.6%、12.2%)と比較すると、社会人・留学生の割合が減少しており、前回の約1/3に比べ、1/4まで減少しています。



Q7. 満年齢は？ (平成27年10月1日現在)

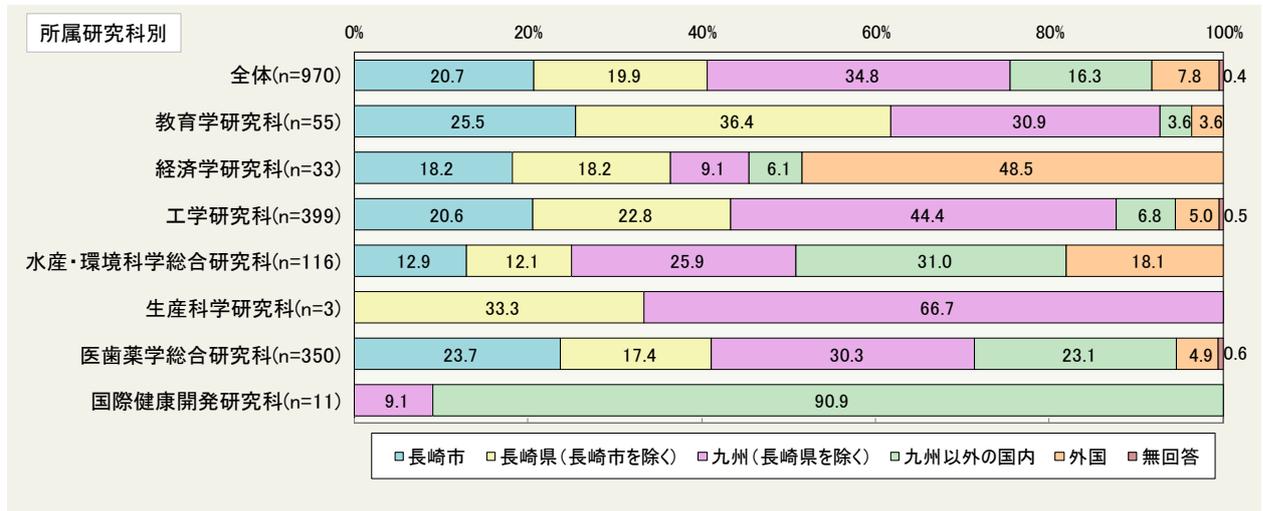
年齢別で見ると、「23歳以下」が35.3%、「24歳」が20.2%、「25歳」が6.8%、「26歳」が4.5%、「27歳」が3.3%、「28歳」が2.9%、「29歳以上」が27.0%となっており、「29歳以上」の割合は前回の31.3%と比べてやや減少しています。



Q8. 出身地は？

出身地は「長崎市」が 20.7%、「長崎県(長崎市を除く)」が 19.9%、「九州(長崎県を除く)」が 34.8%で、九州圏内出身者が全体の 75.5%で、全体の 4 分の 3 を占めており、前回の 67.9%より大幅に高くなっています。「国外」出身者については 7.8%で、前回の 12.8%よりかなり減少しています。

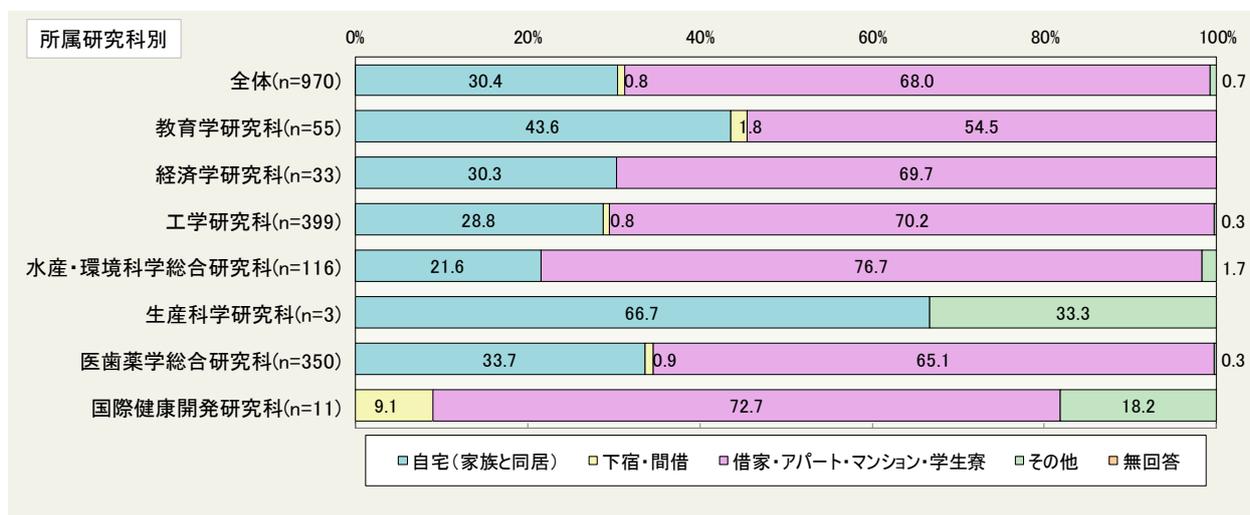
ただし、研究科別に出身地を見てみると、「経済学研究科」においては、「外国」の割合が 48.5%と約半数を占めており、「教育学研究科」では長崎県出身者の割合が 61.9%と高い結果になりました。



B. 生活状況について

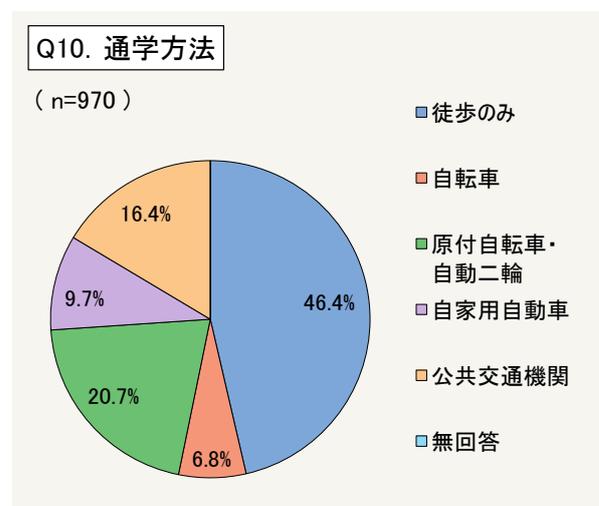
Q9. あなたの住まいは？

「自宅(家族と同居)」が 30.4%に対し、「借家・アパート・マンション・学生寮」(=家族と別居)と回答した院生が 68.0%でした。研究科別にみると「自宅」が最も多いのは「教育学研究科」の 43.6%でした。逆に、「借家・アパート・マンション・学生寮」が多いのは「水産・環境科学総合研究科」76.7%、「工学研究科」70.2%でした。

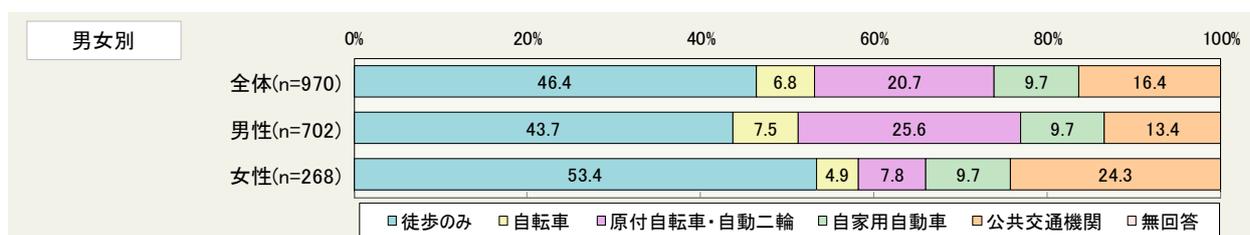


Q10. あなたの主な通学方法は？

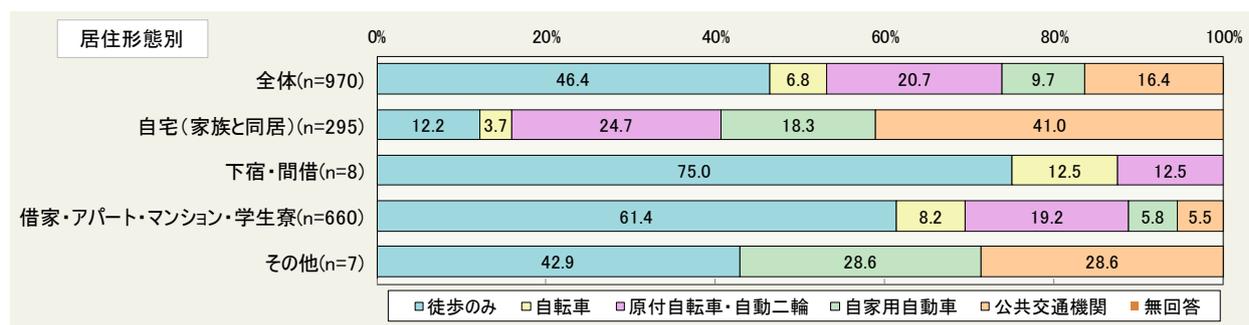
全体では「徒歩のみ」が最も多く 46.4%、ついで「原付自転車・自動二輪」20.7%となっていました。



男女別にみると、男性が「徒歩のみ」43.7%、「原付自転車・自動二輪」25.6%であるのに対し、女性は「徒歩のみ」53.4%、「原付自転車・自動二輪」7.8%、「公共交通機関」24.3%となり、「徒歩のみ」について多い通学方法は「公共交通機関」となっていました。

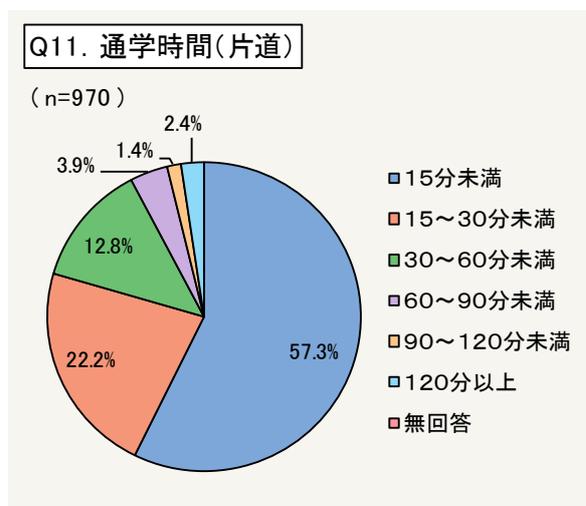


また、居住形態別では「自宅(家族と同居)」で「公共交通機関」41.0 %が最も多く、「借家・アパート・マンション・学生寮」は「徒歩のみ」が 61.4%で最も多くなっています。

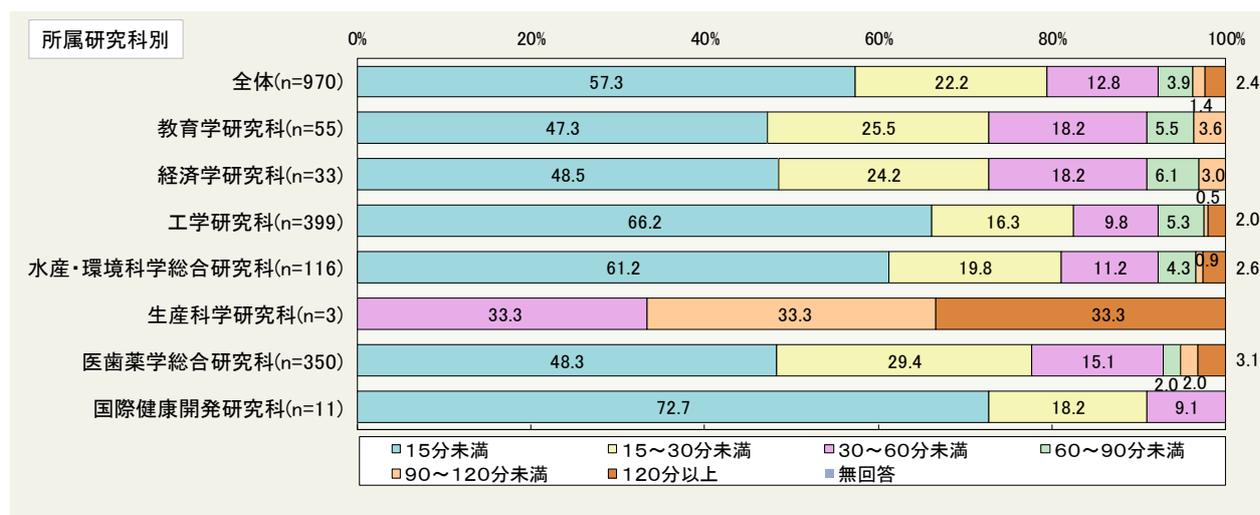


Q11. 通学の片道時間は？(住居から大学まで)

通学の片道時間は、「15分未満」が 57.3%で、続いて「15～30分未満」が 22.2%、「30～60分未満」が 12.8%です。9割以上の大学院生が、1時間未満の通学時間であることがわかります。研究科別にみると、工学研究科並びに水産・環境科学総合研究科の大学院生は他の研究科に比べ通学時間が短めの傾向が見られます。

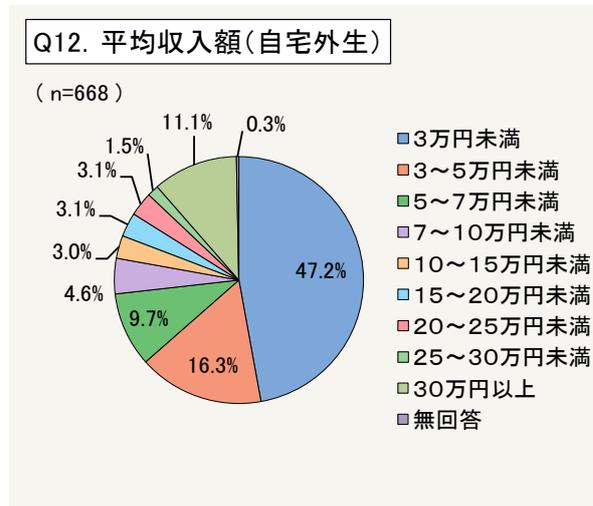
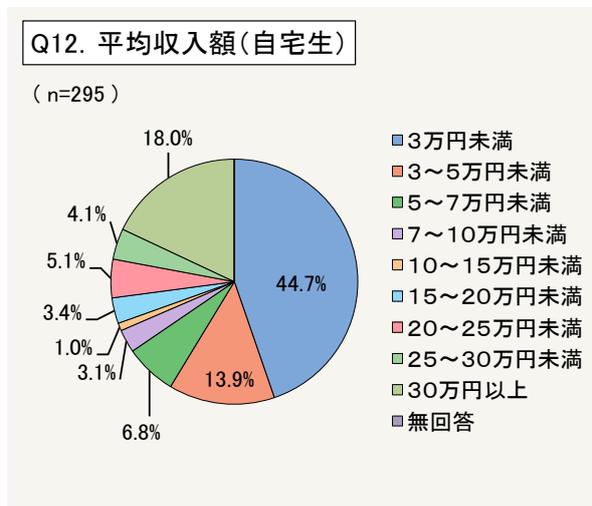


研究科別に別に見ると、通学15分未満の割合が多い「工学研究科」と「水産・環境科学総合研究科」は、共に「借家・アパート・マンション・学生寮」の割合が 7 割を超えており、大学の近くに住まいを借りている人が多いことがわかります。

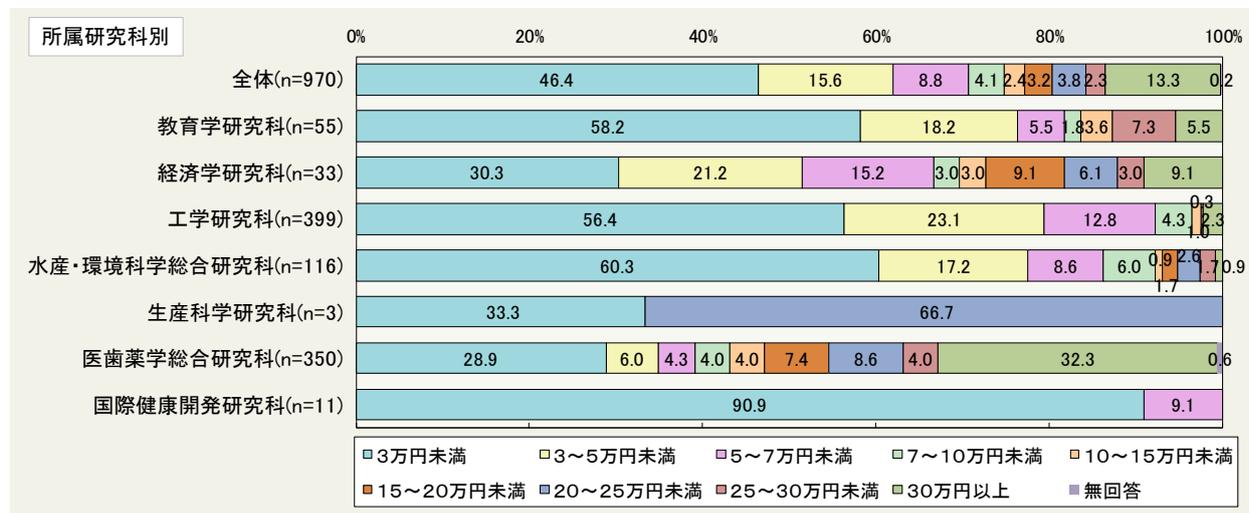


Q12. あなたの1ヶ月の平均収入額(家計支持者からの援助および奨学金は除く)は？

1ヶ月の平均収入額(家計支持者からの援助は除く)は、自宅生・自宅外生に関わらず「3万円未満」が最も多い割合でした。自宅生は次いで「30万円以上(18.0%)」が続きます。自宅生の約3割は、月収20万円以上の収入を得ています。



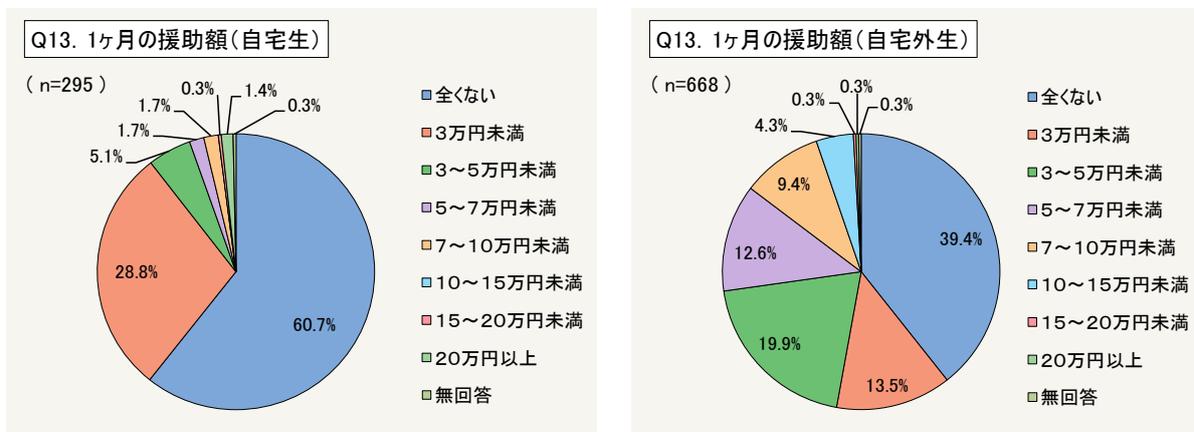
研究科別にみると、「国際健康開発研究科」は「3万円未満」との回答が90.9%と、他の研究科に比べ多い割合を占めることがわかります。逆に、「経済学研究科」や「生産科学研究科」、「医歯薬総合研究科」では、「3万円未満」と回答する院生が、30%前後となっております。他方、「生産科学研究科」、「医歯薬総合研究科」では、「20万円以上」の割合が3割以上を占めており、院生自身が家計支持者である割合も一定数あることがうかがわれます。



Q13. 家計支援者からの1ヶ月の援助はいくらありますか？

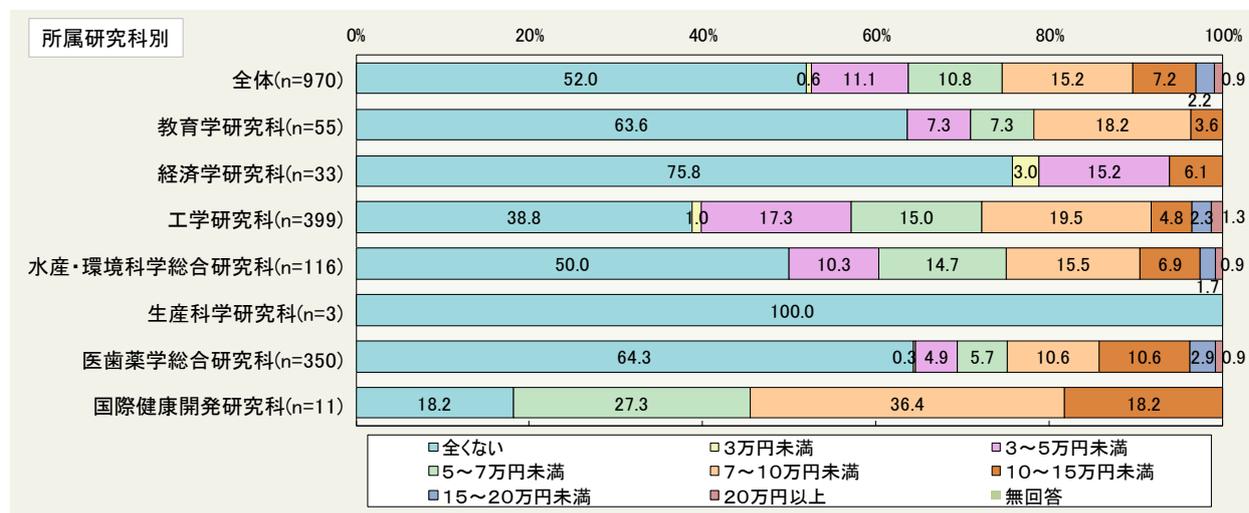
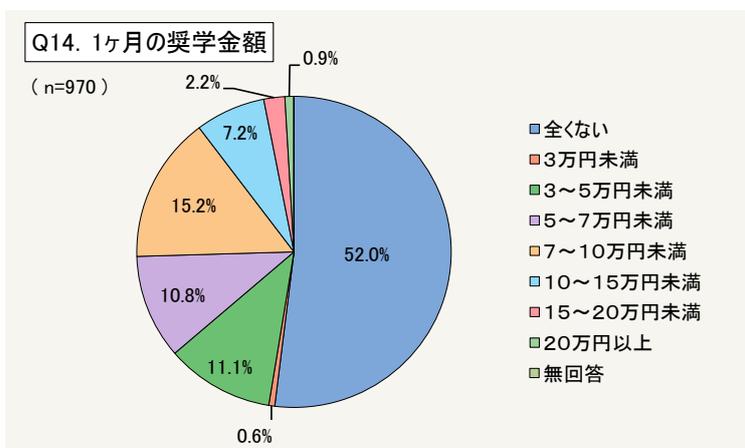
(入学科、入学時のみ支払った納付金および授業料は除く)

自宅生の「全くない」が60.7%、自宅外生の「全くない」が39.4%と、どちらも「全くない」の割合が高くなっています。自宅外生は、「3万円未満」が13.5%、「3～5万円未満」が19.9%であり、合計すると約7割が、「全くない」か、あっても「5万円未満」であると回答しています。



Q14. 1ヶ月の奨学金(給付・貸与を問わず、学生支援機構、地方公共団体あるいは民間の育英奨学団体等から受けた額)はいくらありますか？

「全くない」が52.0%と最も多く、続いて「7～10万円未満」15.2%、「3～5万円未満」11.1%の順でした。「経済学研究科」は「全くない」が75.8%と、奨学金を受けていない大学院生が多いことがわかります。逆に、「工学研究科」は、「全くない」が38.8%と少なく、奨学金を受けている割合が多いことがわかります。

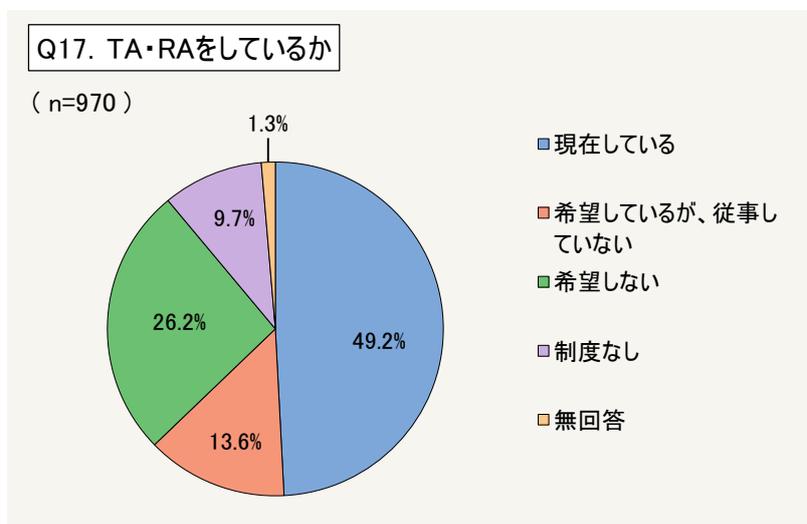
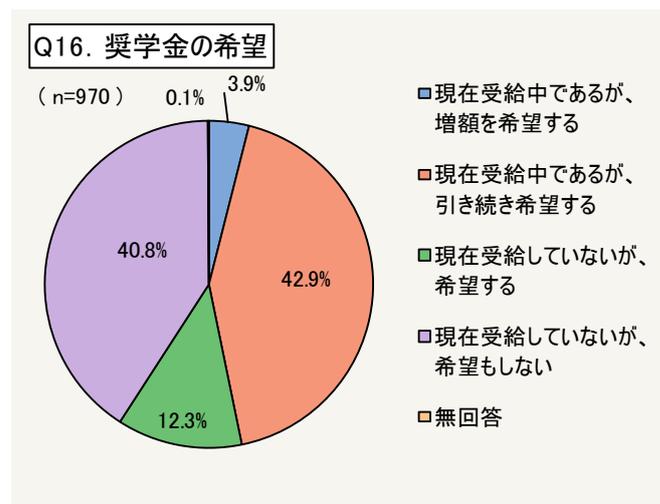
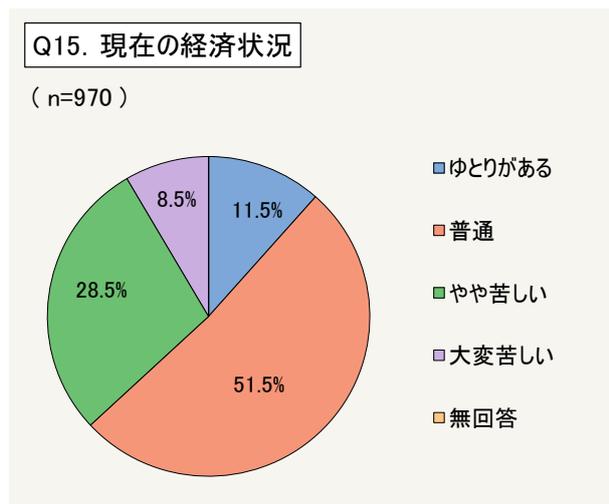


Q15. 現在の経済状況は？

Q16. 奨学金を受けることを希望しますか？

Q17. TA・RAをしていますか？

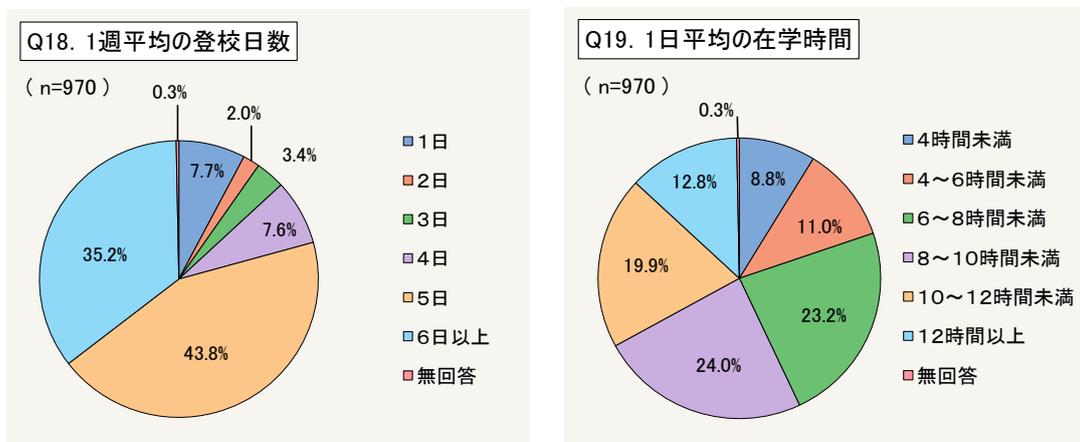
現在の生活状況について、「やや苦しい・大変苦しい」と回答した学生は 36.9%、奨学金を希望する学生は受給中の学生も含め 59.1% (奨学金増額希望者 3.9%、受給者 42.9%、受給希望者 12.3%) でした。一方で、TA・RA に従事している学生は 49.2% であり、「希望しているが従事できていない」が 13.6%、「制度自体がない」と回答した学生は 9.7% です。したがって、奨学金の増額希望者や受給希望者の 16.2% と TA・RA 制度が活用できていない学生 23.3% がいること、また経済的状況が「やや苦しい・大変苦しい」と回答した学生が 36.9% いることから、大学院生の経済支援を検討・実施することが必要だということがわかります。



Q18. 週平均何日大学に来ますか？

Q19. 日平均何時間大学にいますか？

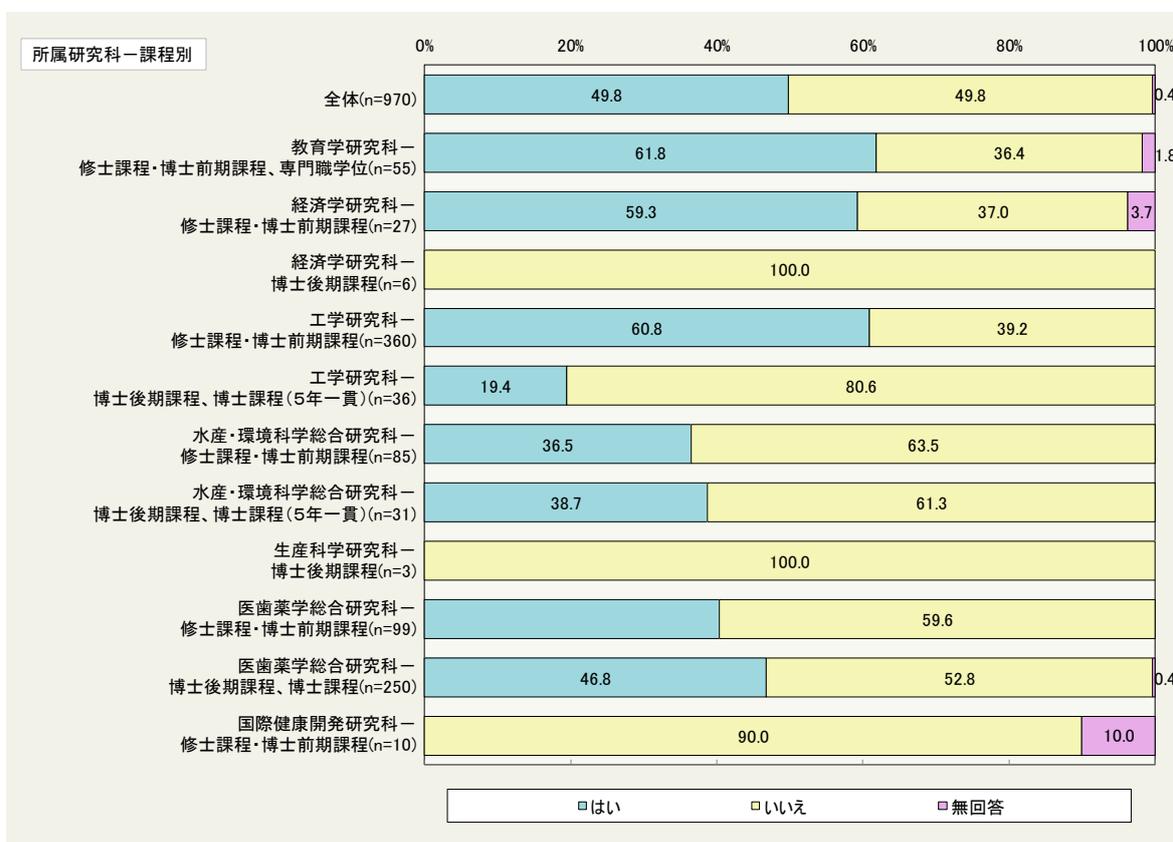
1週間の中で5日以上登校している大学院生は79.0%でした。一方で、3日以下の大学院生は13.1%です。また、1日の平均在学時間は、6時間未満が19.8%、「6～8時間未満」が23.2%であるのに対し、8時間以上が56.7%であることから、半数以上の大学院生が大学を生活の場としているといえるでしょう。



Q20. 現在、アルバイトをしていますか？(TA・RAを除く)

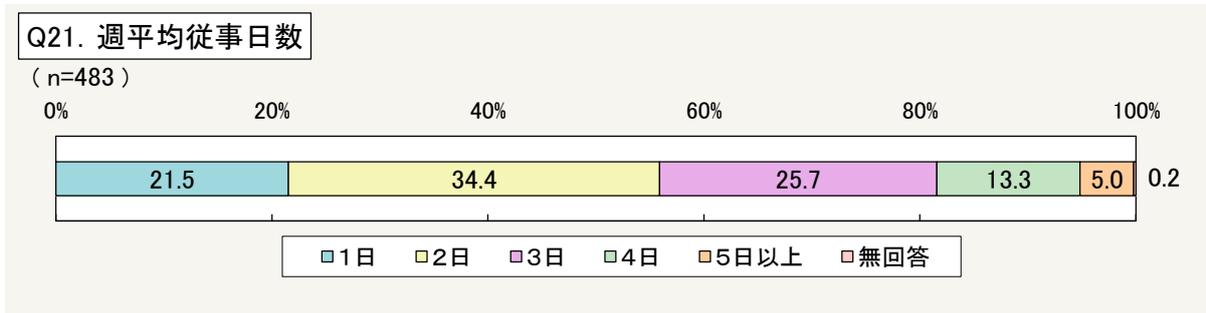
アルバイト活動に関しては「している」が49.8%、「していない」が49.8%と同率でした。研究科別にみると、「教育学研究科(修士課程、専門職学位課程)」61.8%、「工学研究科(修士課程・博士前期課程)」60.8%、「経済学研究科(博士前期課程)」59.3%で、アルバイトをしている学生が半数を超える結果でした。

逆に「していない」が多いのは、「工学研究科(博士後期課程・博士課程5年一貫)」で、8割を超える結果でした。全般的に、比較的時間の余裕があると考えられる前期課程でアルバイトをしている院生が多く、忙しくなる後期課程ではアルバイトをしていない院生が多くなる傾向にあるようです。



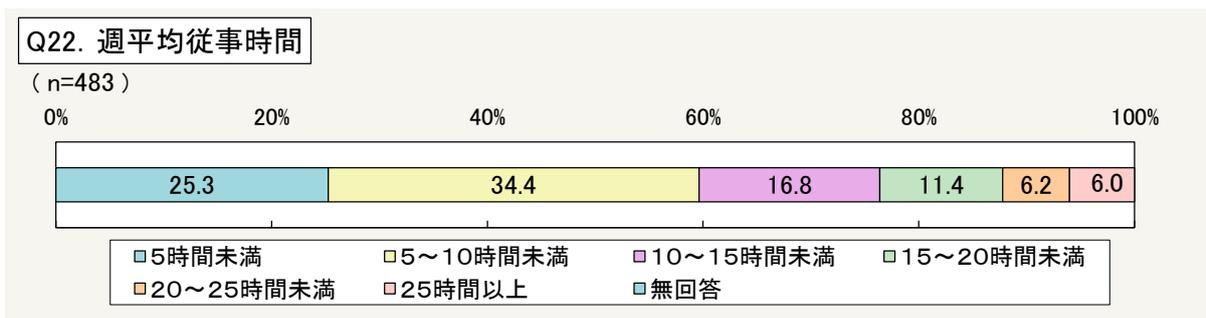
Q21. 【前問で「はい」と答えた方】週平均従事日数は？

アルバイトの従事日数は、週3日以内が合計81.6%であり、ほとんどを占めています。従ってアルバイトをしない日は、週に4日から6日は確保されていることとなります。



Q22. 【Q20で「はい」と答えた方】週平均従事時間は？(移動に要する時間も含む)

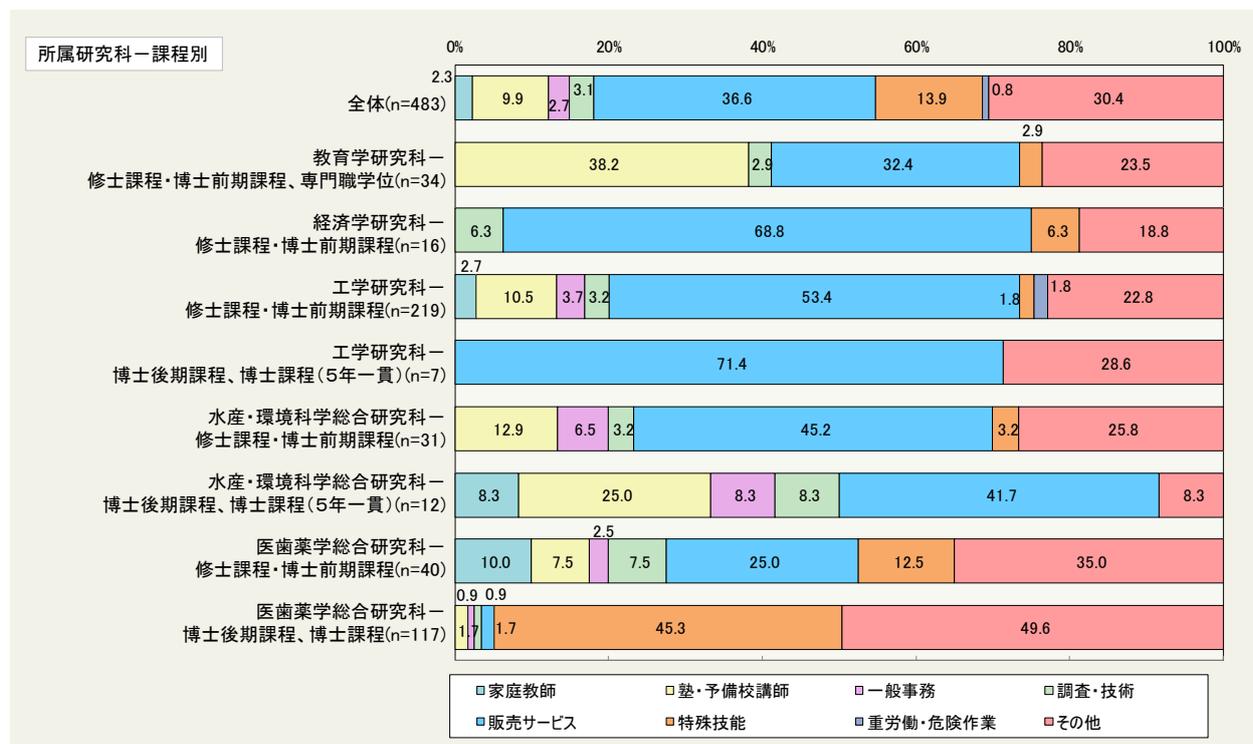
従事時間は、76.4%が週平均15時間未満ですが、15時間20時間未満が11.4%、さらに12.2%が20時間以上となっています。アルバイトに従事する時間が長くなり、学業に専念する時間が短い学生が少なからずいることは懸念材料と言えそうです。



Q23. 【Q20 で「はい」と答えた方】アルバイトの主な職種は？

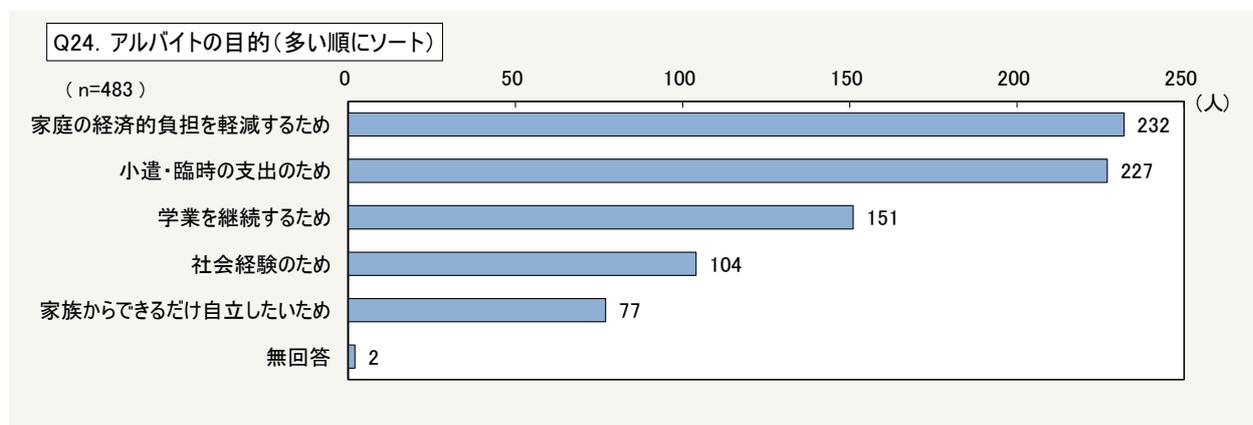
職種は、全体では、多い順に 3 つにグループ化できるようです。それは、『①販売・サービス』、『②特殊技能、塾・予備校講師』、そして『③調査・技術、一般事務、家庭教師、重労働・危険作業』ですが、アルバイト市場の需要および院生の技術・能力の兼ね合いでこのような順位になったと考えられます。

研究科別に見ると、「医歯薬学総合研究科(博士後期課程、博士課程)」では「特殊技能」が 45.3%、「教育学研究科(修士課程・博士前期課程、専門職学位課程)」では「塾・予備校講師」が 38.2%、卒業した学部および大学院で学ぶ内容を反映した職種に多く分布しているようです。



Q24. 【Q20 で「はい」と答えた方】アルバイトをする目的は？【主なもの 2 つまで回答可】

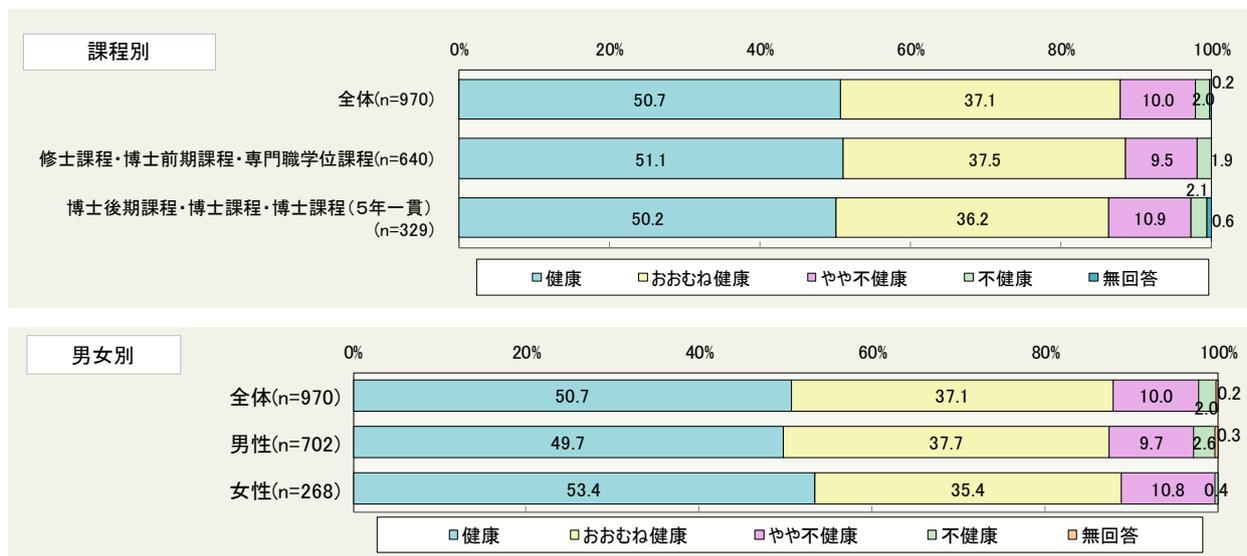
アルバイトの目的は「家庭の経済的負担を軽減するため」232 名(48.0%)が最も多い結果となりました。また、つづいて「小遣・臨時の支出のため」227 名(47.0%)、「学業を継続するため」151 名(31.3%)となり、前回(それぞれ 36.1%、38.3%)と比較すると逆転しており、「小遣・臨時の支出のため」の割合が増加していることがわかります。



C. 健康について

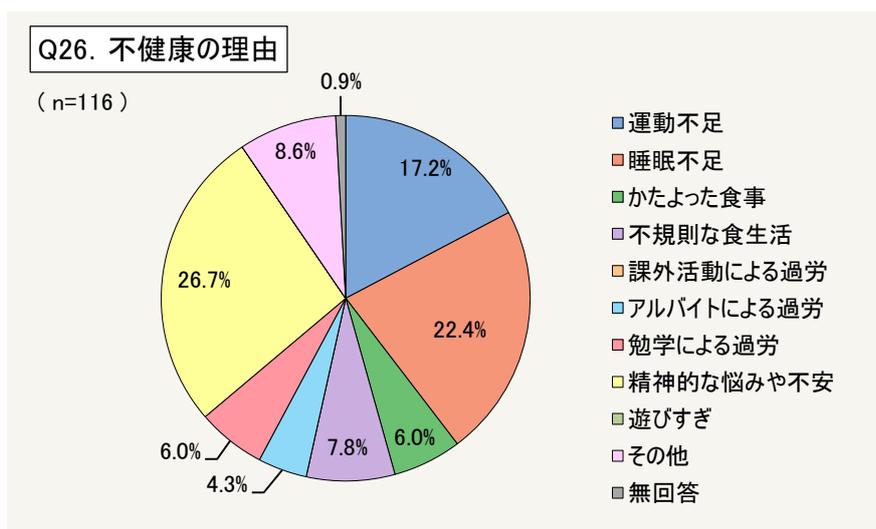
Q25. 現在の健康状態は？

現在の健康状態について、合計 12.0%の学生が「不健康」もしくは「やや不健康」と答えています。前回(15.1%)よりも低くなっていますが、前回同様、学部学生(9.0%)に比べると若干高くなっていました。男女間では「不健康」と答えた学生が男子に多くなっています。



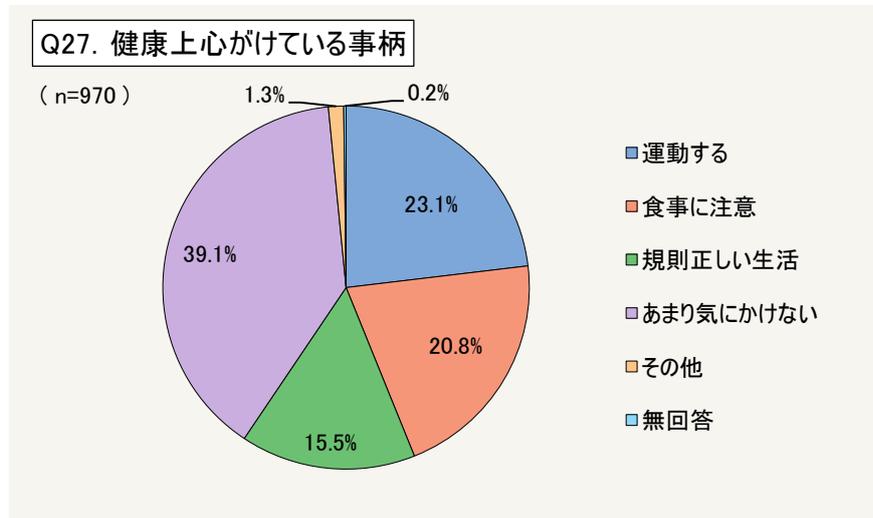
Q26. 【前問で「やや不健康」又は「不健康」と答えた方】その理由は？

「不健康」もしくは「やや不健康」と考える主な理由は、「精神的な悩みや不安」(26.7%)が最も多く、前回(17.8%)と比較して大幅に増加しています(詳細は後述)。ついで「睡眠不足」(22.4%)、「運動不足」(17.2%)、不適切な食生活(「かたよった食事」と「不規則な食生活」)(合計 13.8%)となっていました。



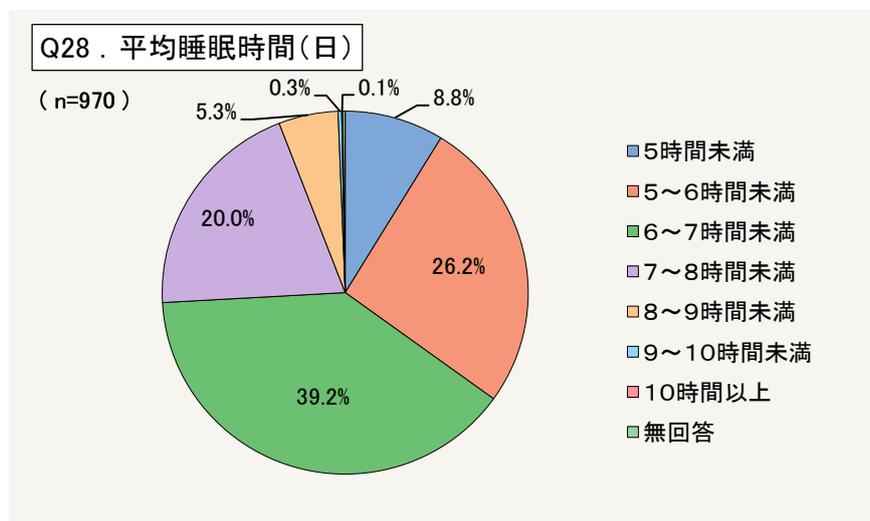
Q27. 日頃、健康上心掛けている事柄は？

健康への心掛けについては、「運動する」23.1%(前回 21.1%)、「食事に注意する」20.8%(前回 22.3%)、「規則正しい生活」15.5%(前回 16.9%)となっており、前回より「運動」を心掛けている学生が増えています。それにより前項で「運動不足」が少なくなったものと思われます。また、「食事に注意」が前々回、前回と徐々に減ってきており、不健康の理由としても「かたよった食事」は減少しています。



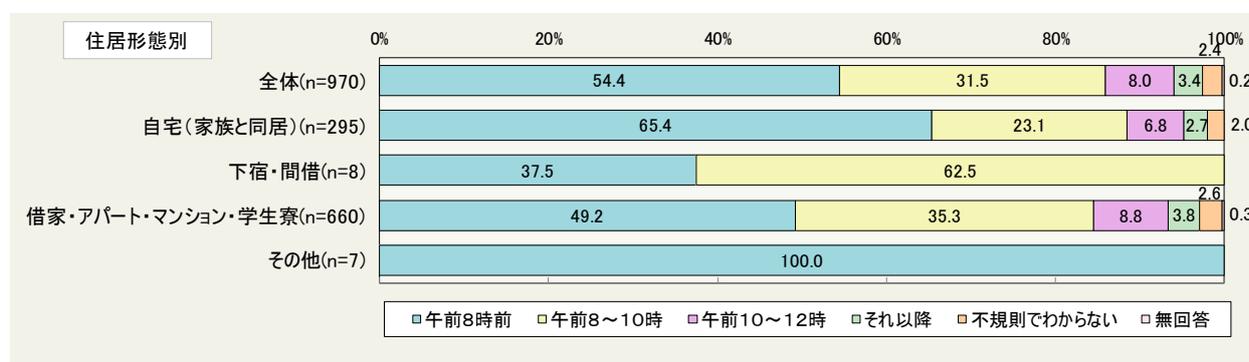
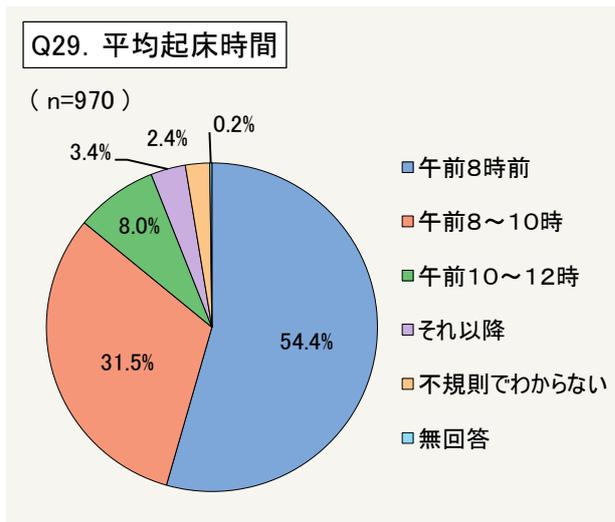
Q28. 1日の平均睡眠時間は？

一方、睡眠時間が6時間未満の学生は34.9%で前回(33.6%)とほぼ同様であり、前回見られた改善は維持されているようですが、まだ3分の1の学生では睡眠時間が短いようです。



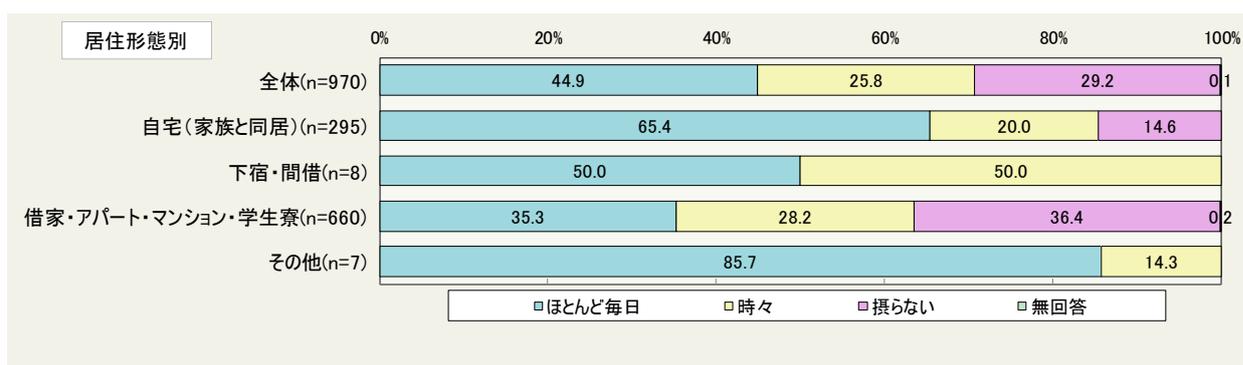
Q29. 平日平均して何時頃に起床していますか？

平日の起床時間は「午前 8 時前」が 54.4%と、半数以上で一番多い結果となりました。次の「午前 8～10 時」の 31.5%と合わせると、9 割近い学生が 10 時前には起床しており、学部生とほぼ同様の結果であることがわかります。



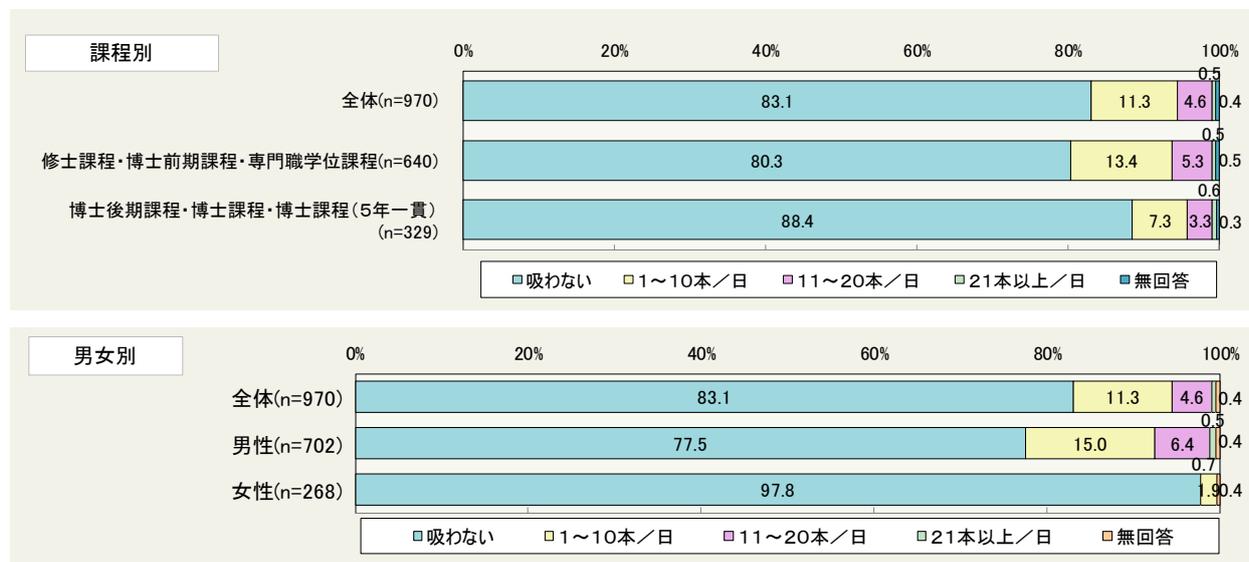
Q30. 朝食を摂っていますか？

朝食の摂取率は、「ほとんど毎日」が全体で 44.9%と前回(49.6%)よりやや減少していますが、自宅通学生では前回とほぼ同じで高い傾向にありました(65.4%)。借家・アパート・マンション・学生寮の学生は「摂らない」が 36.4%と、前回(28.9%)より増加していることがわかります。



Q31. たばこを吸いますか？

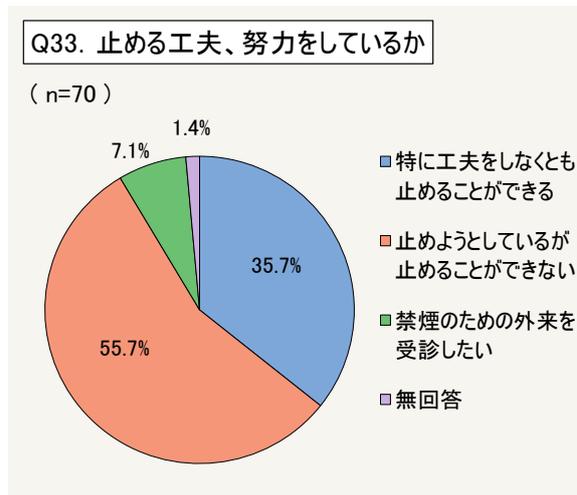
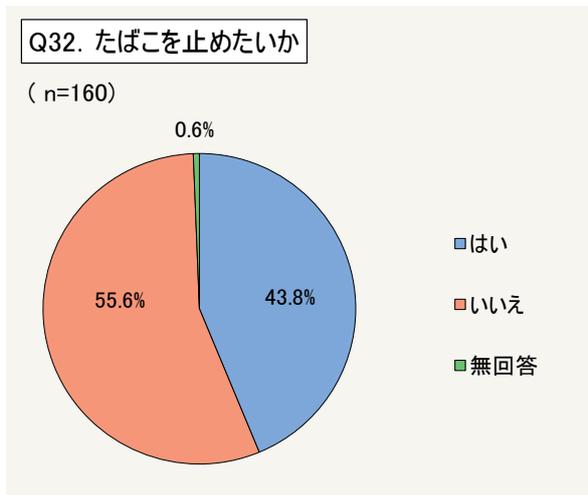
喫煙については、タバコを吸う学生が合計 16.4% (前回 14.9%)とやや増加しており、女性では減少したにもかかわらず男性で増加し、学部生(8.8%)と比べても喫煙率が高いようです。



Q32. 【前問で「吸う」と答えた方】たばこを止めたいと思っていますか？

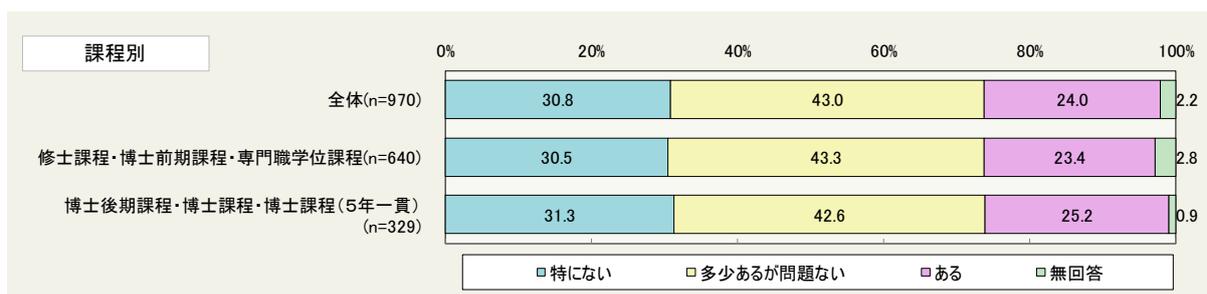
Q33. 【前問で「はい」と答えた方】止める工夫や努力をしていますか？

また、43.8%の喫煙者が、「止めたいと思っている」と答えており、これは学部生(39.6%)を上回ります。ただ、「止めようとしているが止めることができない」学生が 55.7%と半数を超えており、「禁煙のための外来を受診したい」学生も 7.1%いることから、禁煙を支援する活動が求められます。

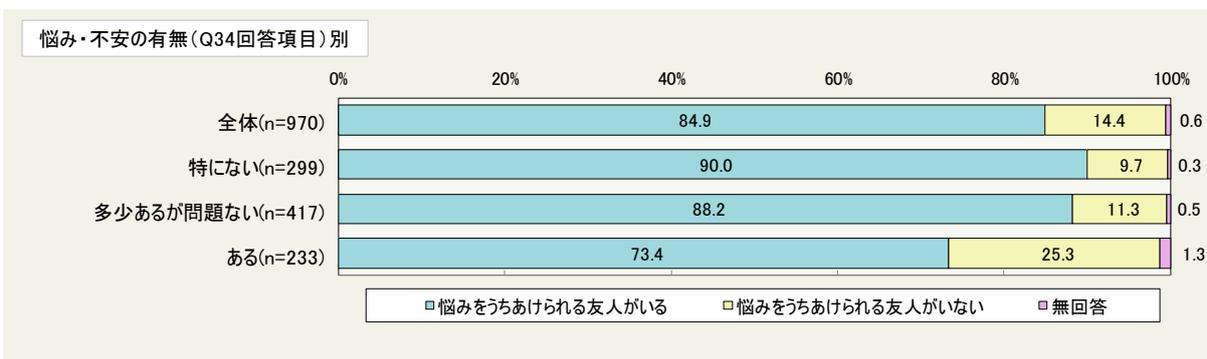


Q34. 現在悩みや不安がありますか？

「悩みや不安」が「ある」学生は 24.0%で、前回(24.9%)および学部生(22.1%)とほぼ同水準でした。



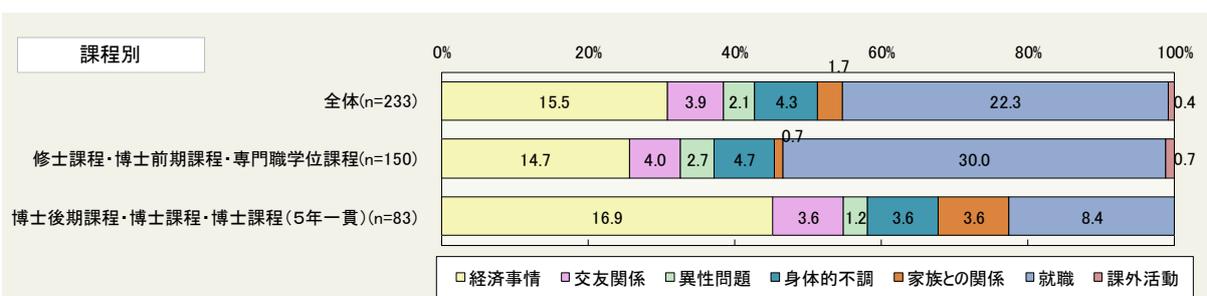
悩みや不安がある学生は、前回と同様、他の学生に比べて悩みをうちあげられる友人がいない割合(Q73)が2倍以上(約25.3%対9.7%)と高いようです。



縦軸: Q34. 悩みや不安の有無 横軸: Q73. 悩みをうちあげられる友人の有無

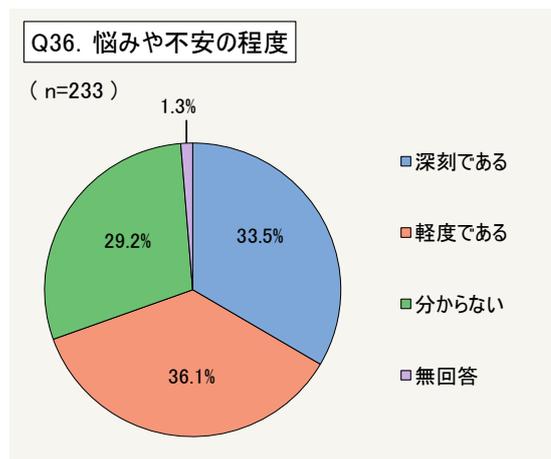
Q35. 【前問で「ある」と答えた方】悩みや不安は主にどんなことについてですか？

多かったのは「勉強」23.2%と「就職」22.3%でしたが、前回(それぞれ 20.3%、25.1%)と比べると「就職」が減り「勉強」の比率が高くなっていました。「経済事情」が 15.5%で、前回(10.4%)より増加しており、経済的支援の在り方を考える必要がありそうです。



Q36. 悩みや不安の程度は？

悩みや不安がある学生の不安や悩みの程度は、「深刻である」33.5%、「軽度である」36.1%となりました。(前回は悩みや不安がある学生に限定されていなかったため、前回との比較は困難でした)

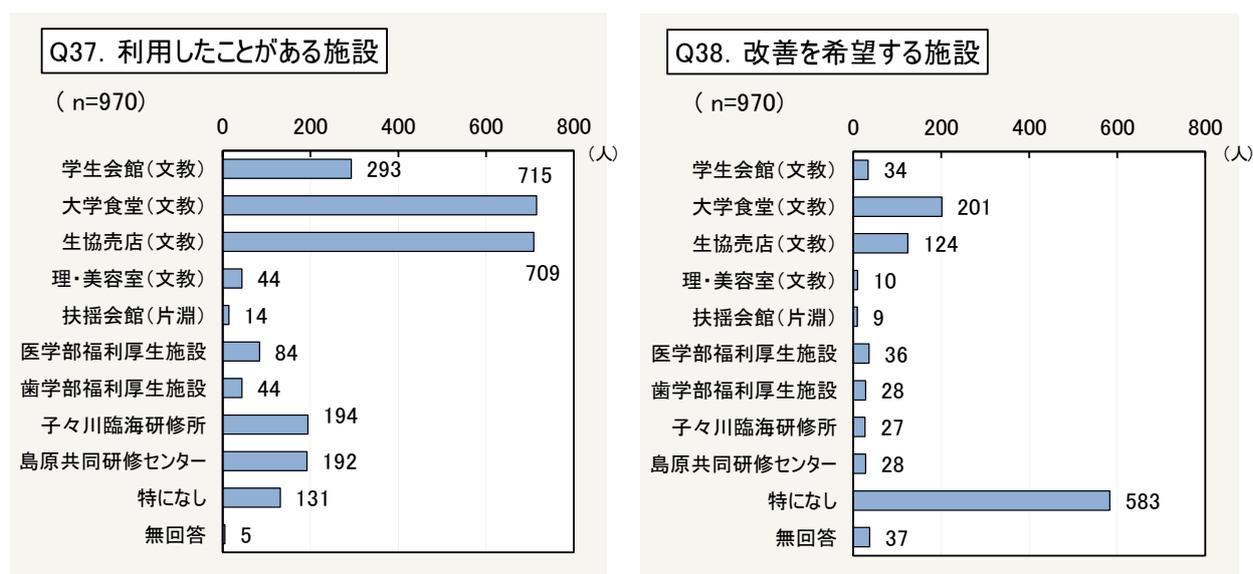


D. 福利厚生施設について

Q37. 福利厚生施設の中で、あなたが利用したことがある施設は？【複数回答可】

Q38. 福利厚生施設の中で、あなたが改善を希望する施設は？【複数回答可】

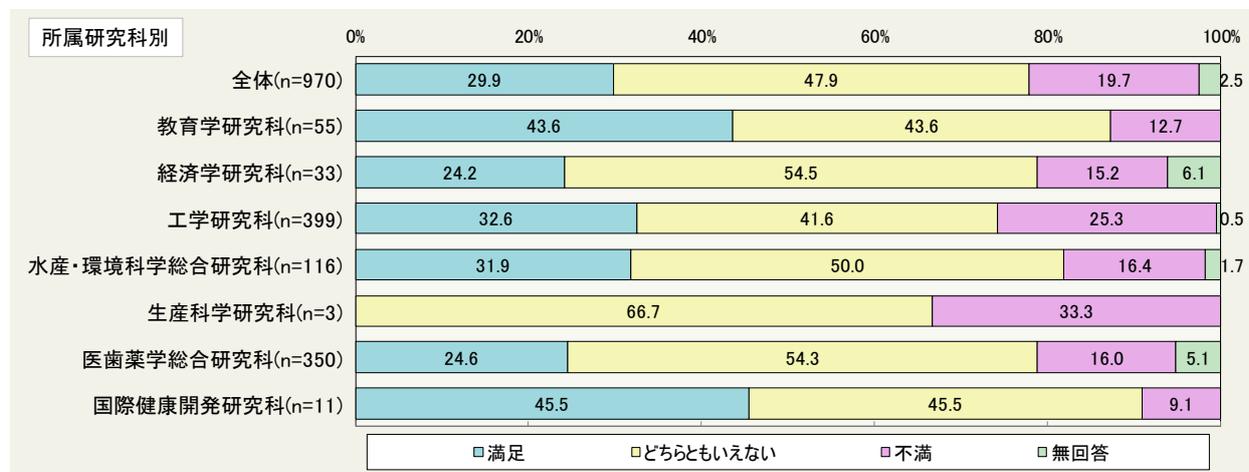
学部生からのアンケート結果と同様に、文教地区の大学食堂と生協売店の利用率は非常に高い値となっています。また大学院生についても、201名(28.1%)の学生が大学食堂(文教地区)の改善を望んでおり、改善を希望する施設の中では、最も要望が高くなっています。ただし、この数字には、坂本および片淵キャンパスの大学院生の声はほとんど含まれていないと考えられます。



Q39. あなたがいつも利用する学内の食堂(大学食堂)について、満足していますか？

学内の食堂(大学食堂)について尋ねた結果は、「不満」と答えた学生は19.7%と、前回(28.3%)と比較すると減少していることがわかります。

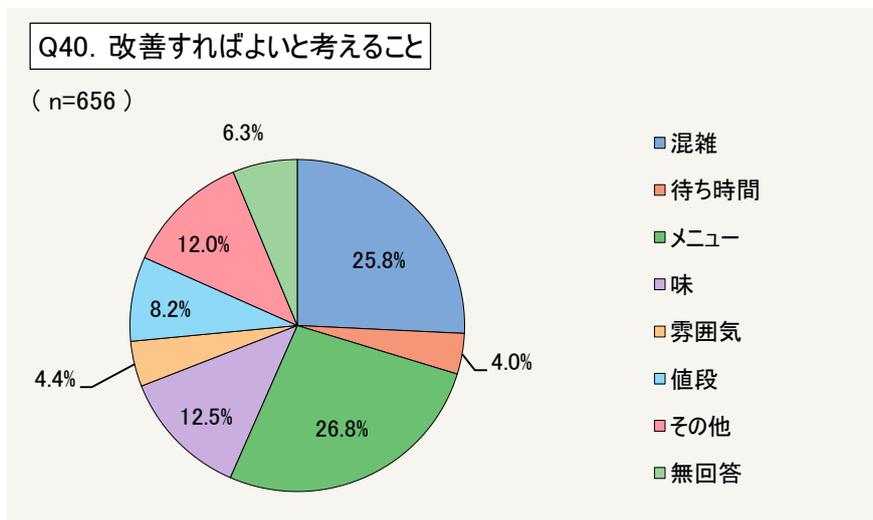
研究科別で見ると、食堂に満足していると答えている学生は「教育学研究科」で43.6%と高い一方、「経済学研究科」で24.2%、「医歯薬学総合研究科」で24.6%と各研究科回答者4分の1以下となっています。学部生への調査(「満足」が33.1%)と比較しても更に満足度が低いことから、やはり一層の改善が必要と思われます。



Q40. 【前問で「不満」又は「どちらともいえない」と答えた方】何を改善すればよいと考えますか？

改善を望む項目としては、「混雑」25.8%、「メニュー」26.8%がそれぞれ全体の4分の1を超えており、このような傾向は学部生からの要望と同じく割合が高い結果となりました。

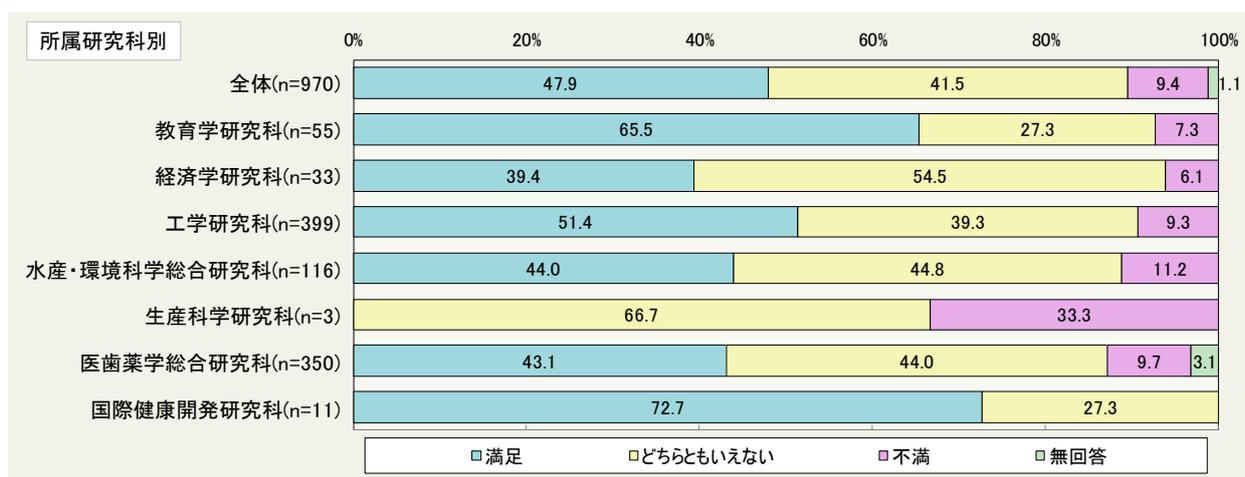
また、「味」に関して 12.5%の学生が改善を求めているのが目立ちますが、これは学部生の 6.4%と比べ高い値であると言えます。



Q41. あなたがいつも利用する学内の生協売店について、満足していますか？

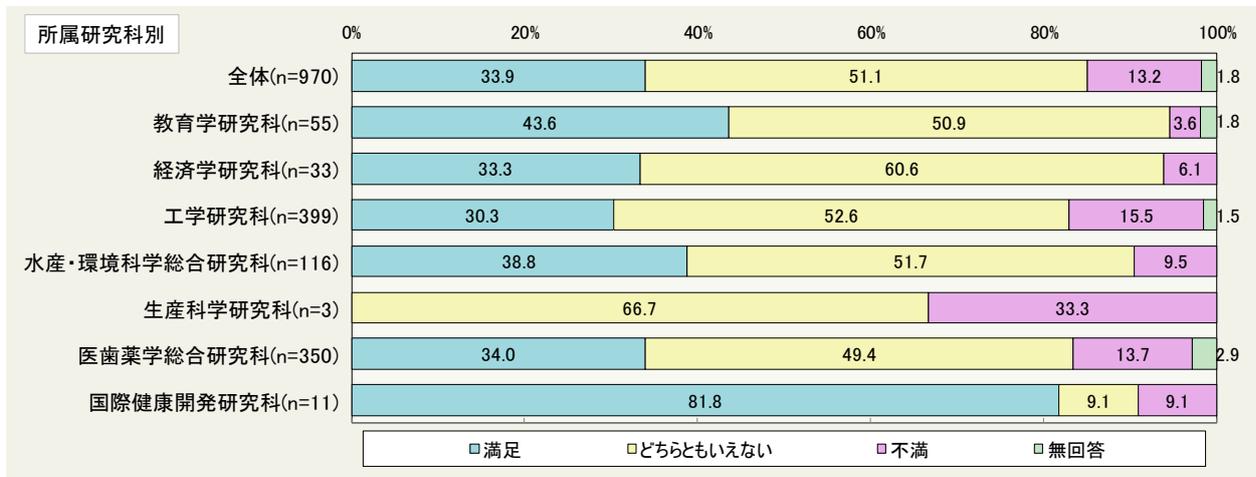
生協売店について尋ねた結果は、「満足」と答えた学生が、全体で 47.9% (前回 54.2%) とやはり減少が見られましたが、約半数が「満足」と答えていることがわかります。一方で、「不満」と答えた学生は 9.4% と、前回 (15.6%) と比較すると減少している点は、学内食堂と同様の傾向であることがわかります。

研究科別で見ると、生協売店に満足していると答えている学生は「教育学研究科」で 65.5% と、学内食堂と同様に満足度が高い傾向が見られます。



Q42. あなたが所属する研究科にある談話室等について、満足していますか？

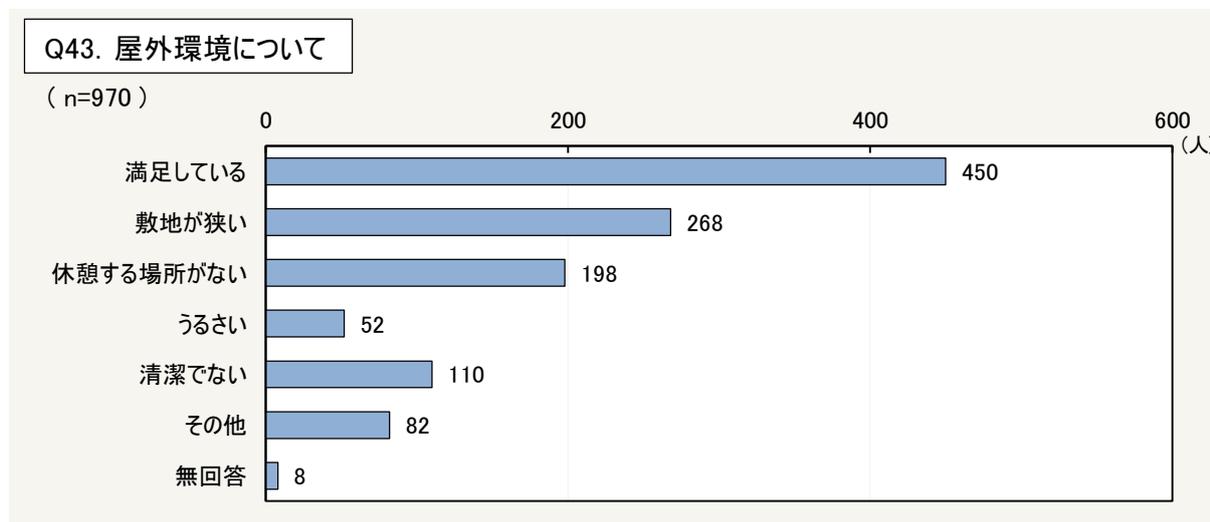
談話室については、「どちらともいえない」という回答が最も多い(51.1%)ことから、大学院生には談話室への関心が低いことが推測されます。ただし、全体で見た「満足度」は 33.9%と低いため、更なる改善が望まれています。



E. キャンパス全般について

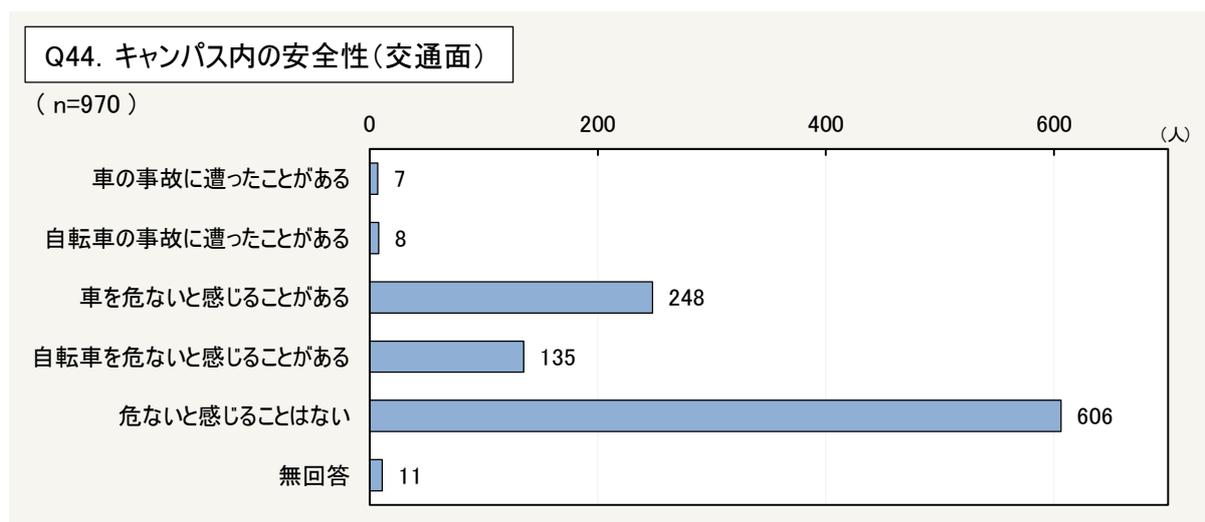
Q43. 屋外の環境について、所属する研究科キャンパスの屋外環境については？【主なもの2つまで回答可】

屋外環境についても、学部生と同様に、「満足している」が最も多く 450 名 (46.4%) ですが、「敷地が狭い」が 268 名 (27.6%)、「休憩する場所がない」が 198 名 (20.4%)、「清潔でない」が 110 名 (11.3%) と、前回とほぼ同様の値となっており、前回に続き改善が求められていることがわかります。



Q44. キャンパス内の交通面での安全性について(複数回答可)

キャンパス内の安全性については、「危ないと感じることはない」が 606 名 (62.5%) で高い割合となっていますが、「危ないと感じることがある」は車が 248 名 (25.6%)、自転車が 135 名 (13.9%) とこちらも高い割合であることがわかります。さらに、実際に「事故に遭ったことがある」が車(自動車)では 7 名 (0.7%)、自転車では 8 名 (0.8%) いることから、何かしらの対策を検討する必要があると言えます。

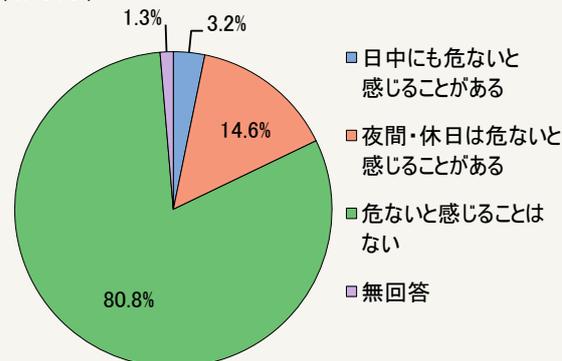


Q45. キャンパス内の治安(迷惑行為)について

キャンパス内の治安(迷惑行為)については、日中、夜間を通して危ないと感じることがあると回答した学生が、17.8%いました。

Q45. キャンパス内の治安(迷惑行為)

(n=970)

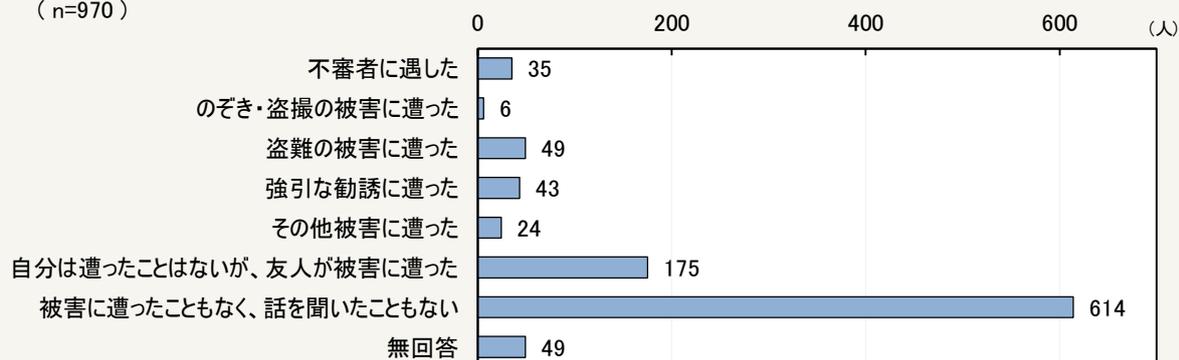


Q46. キャンパス内の迷惑行為について、どれに当てはまりますか？(複数回答)

迷惑行為の内容については、多くの学生が「被害に遭ったこともなく、話を聞いたこともない」614名(63.3%)と答える一方で、遭ったことのある学生の中では、「盗難の被害に遭った」49名(5.1%)、「強引な勧誘に遭った」43名(4.4%)などの回答があります。

Q46. キャンパス内の迷惑行為について(当てはまるもの)

(n=970)

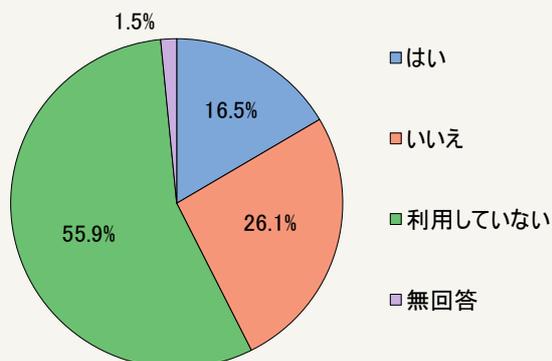


Q47. 駐輪場について満足していますか？

駐輪場の満足度を見てみると、「満足」16.5%と低い値でした。また、「利用していない」が55.9%で、これらの割合は学部生とほぼ同様の結果となりました。

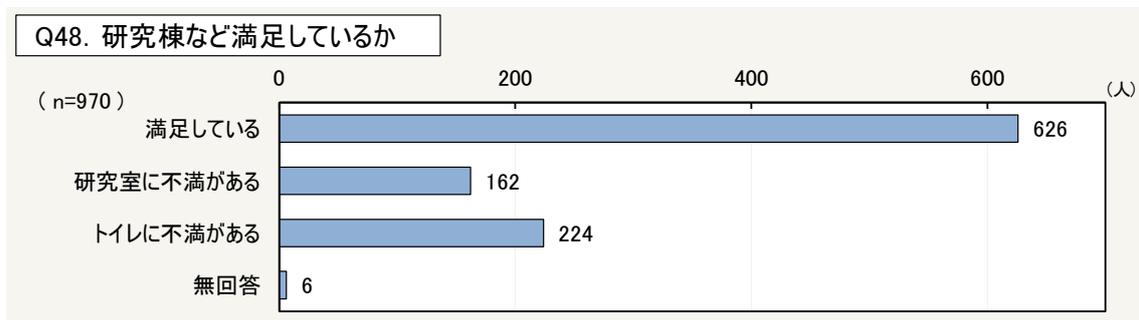
Q47. 駐輪場への満足

(n=970)



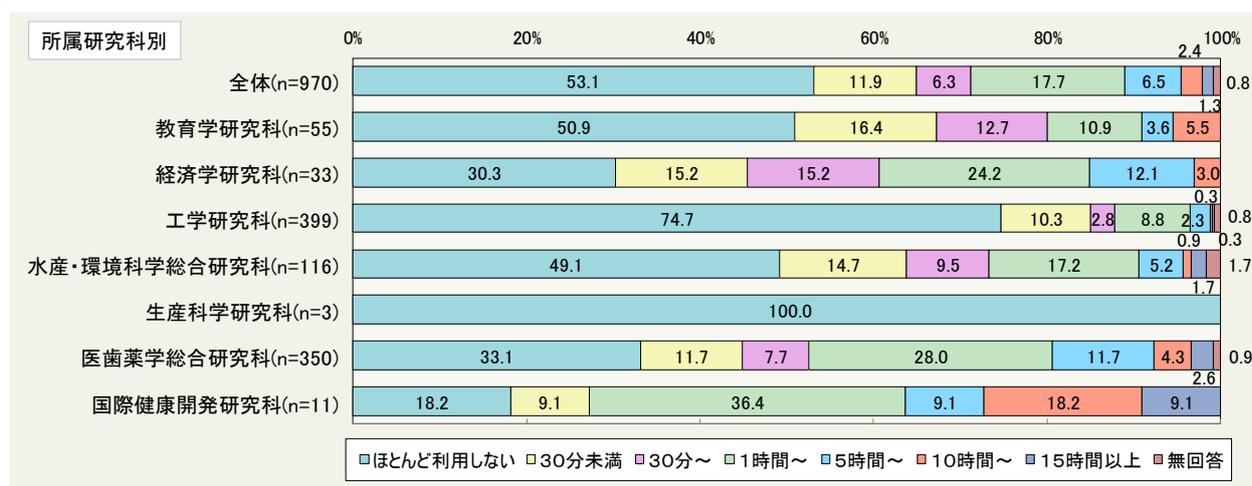
Q48. 研究棟(研究室・トイレ)について満足していますか？(複数回答可)

研究棟(研究室、トイレ)の満足度については、626名(64.5%)が満足していると回答しています。ただし、224名(23.1%)が「トイレに不満がある」、162名(16.7%)が「研究室に不満がある」と回答しており、引き続きの改善が求められているようです。



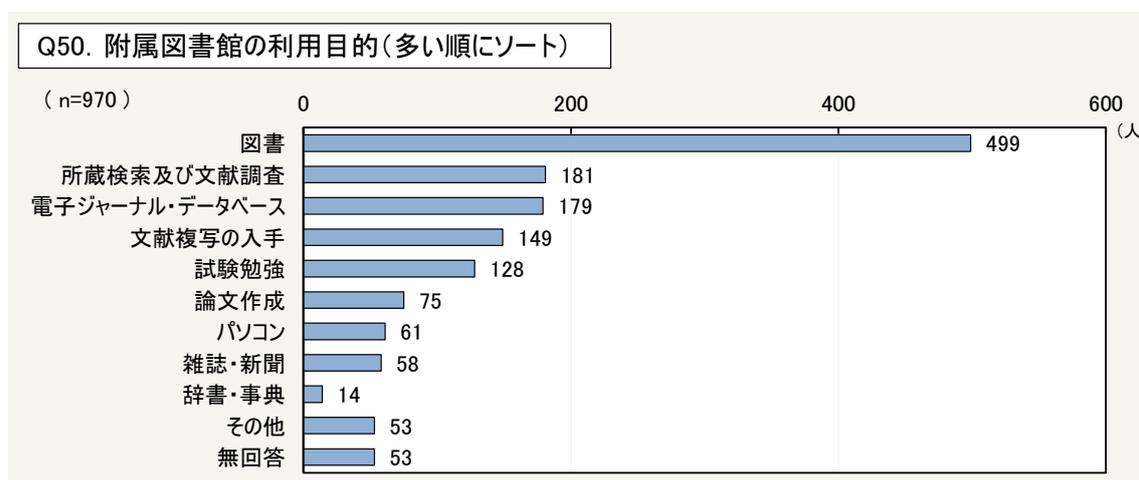
Q49. 附属図書館(分館等を含む)および電子ジャーナル・データベースの利用について、週平均何時間くらい利用していますか？

附属図書館の利用度は、「ほとんど利用しない」が全体で53.1%と、前回(48.8%)と比較し増加しており、ほとんど利用しない学生が増えていることがわかります。また、週平均の利用時間を見ると「1時間以上」が17.7%(前回20.9%)と減少し、5時間以上の合計値が10.2%(前回11.2%)と同水準にあります。



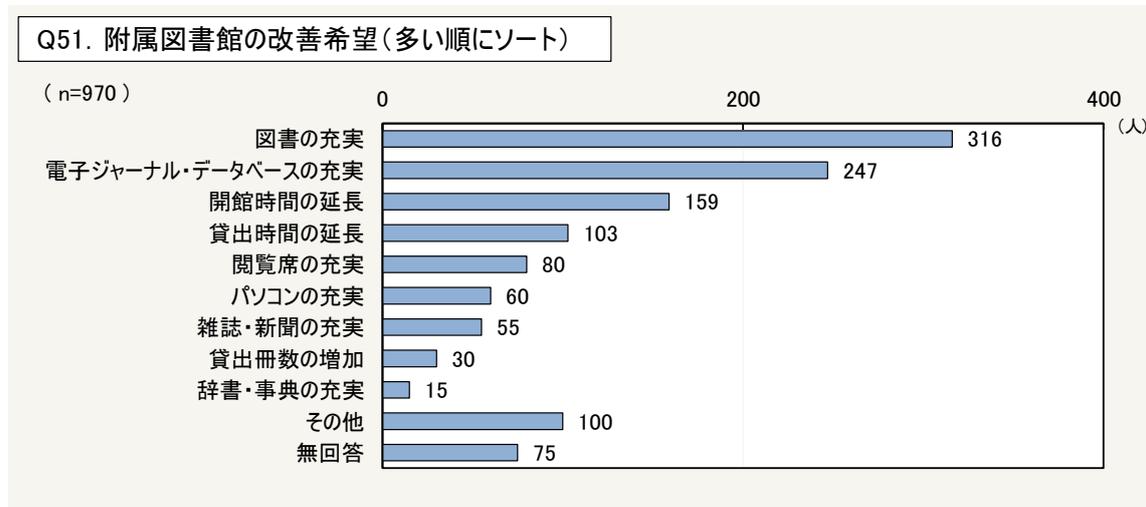
Q50. 附属図書館の利用目的は？【主なもの2つまで回答可】

附属図書館の利用目的に関しては、全体で見ると「図書」が499名(51.4%)で最も高い結果となりました。



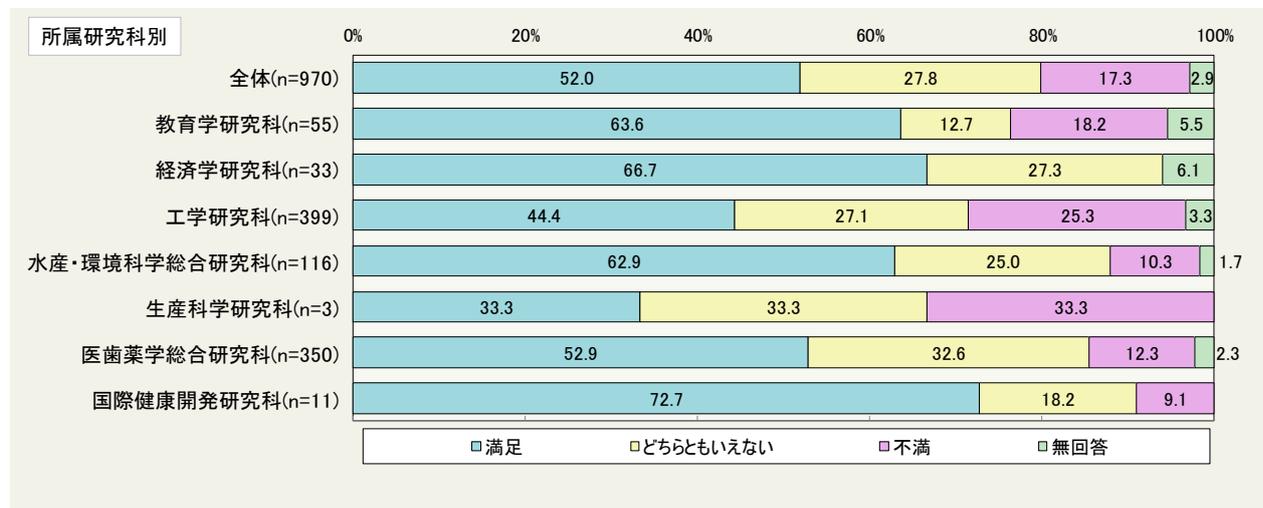
Q51. 附属図書館で最も改善を希望することは？【主なもの2つまで回答可】

附属図書館で改善を希望することに関しては、「図書の充実」316名(32.6%)、「電子ジャーナル・データベースの充実」247名(25.5%)、「開館時間の延長」159名(16.4%)の順で高く、改善が求められています。



Q52. キャンパス内の禁煙・分煙対策に満足していますか？

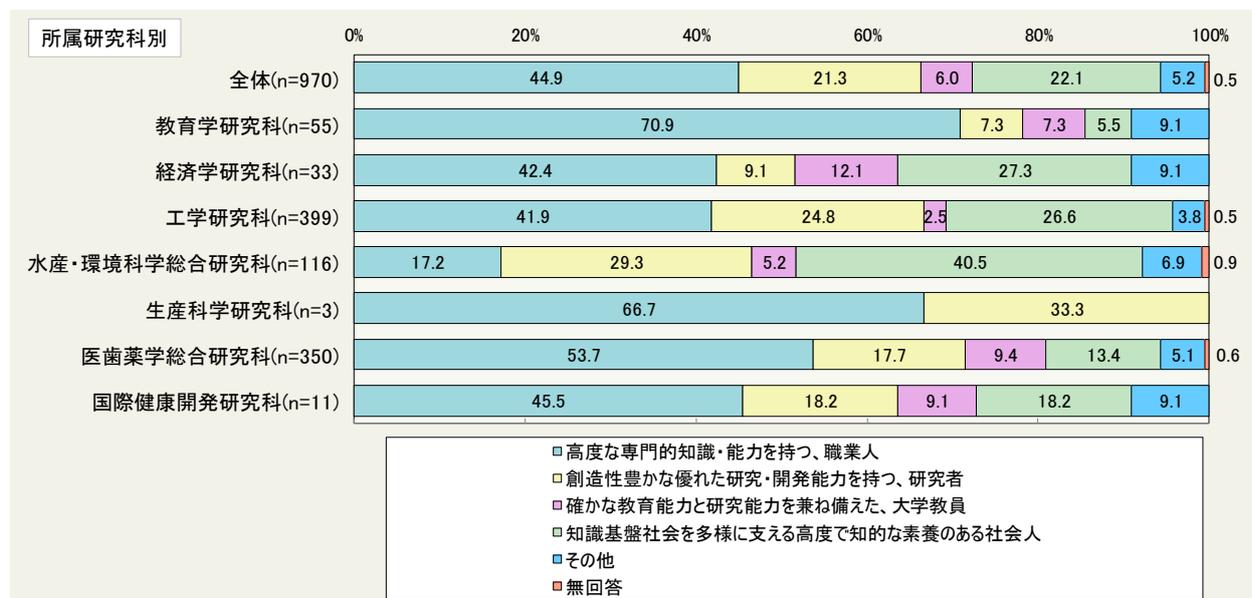
長崎大学は坂本地区は、全面禁煙になっていますが、禁煙・分煙対策に不満とする回答が全体で17.3%あることは、今後も注意する必要があります。



F. 入学・修学について

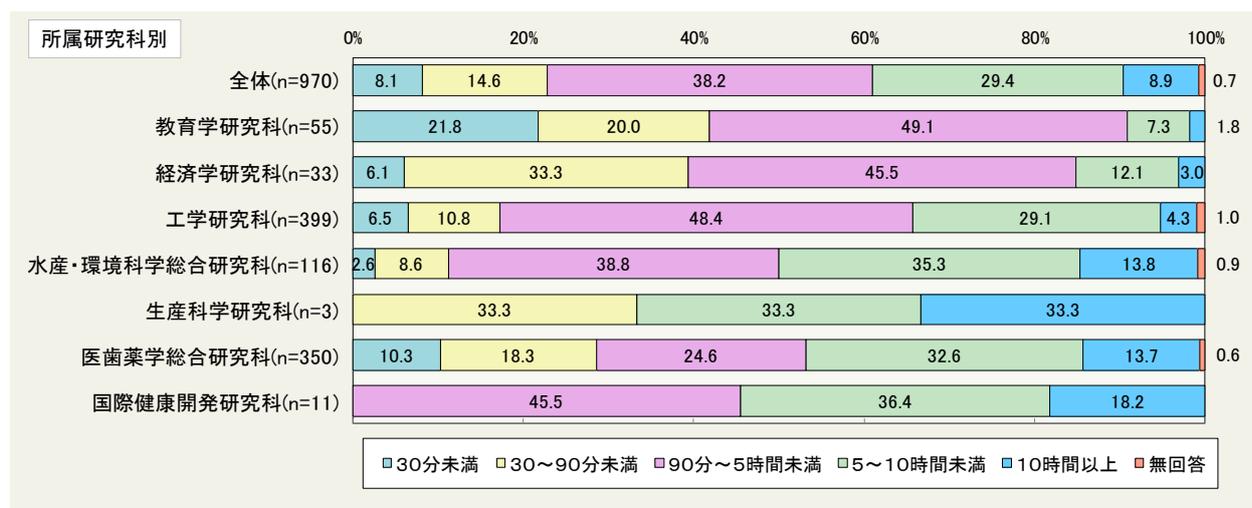
Q53. 大学院で勉強することにより、あなたの目指すものは何ですか？

院生が何を指して勉強しているのかを研究科ごとに調査した結果、研究科ごとに最多となった目標とする項目に差異はありますが、「高度な専門的知識・能力を持つ、職業人」、「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ、研究者」が高い割合となっており、いずれも高い目的意識を持って進学しているものと思われます。



Q54. 授業以外の自分で行う研究活動は一日平均何時間ですか？

それぞれの目標を達成するために、院生の研究活動時間を週平均で研究科ごとに調査すると、いずれの研究科も研究活動に多くの時間を割いていることがわかります。

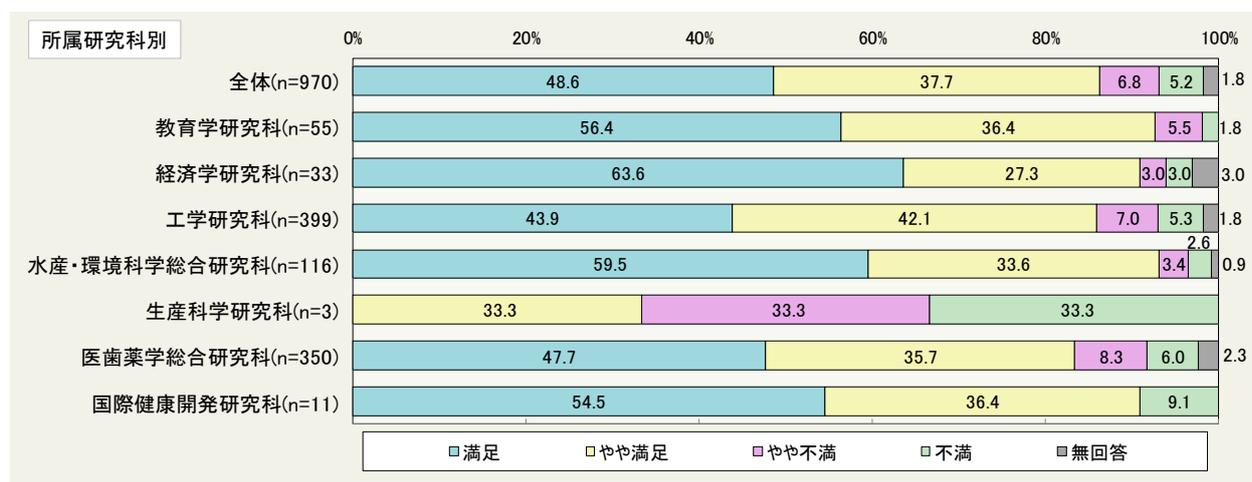


Q55. あなたは研究指導に対して満足していますか？

研究指導に対する満足度は、「満足」に「やや満足」を加えた割合が全体で 86.3%と非常に高く、教員側の努力が評価されています。しかし、一方で「やや不満」や「不満」の割合の高い研究科については考慮・改善の必要があるものと思われます。

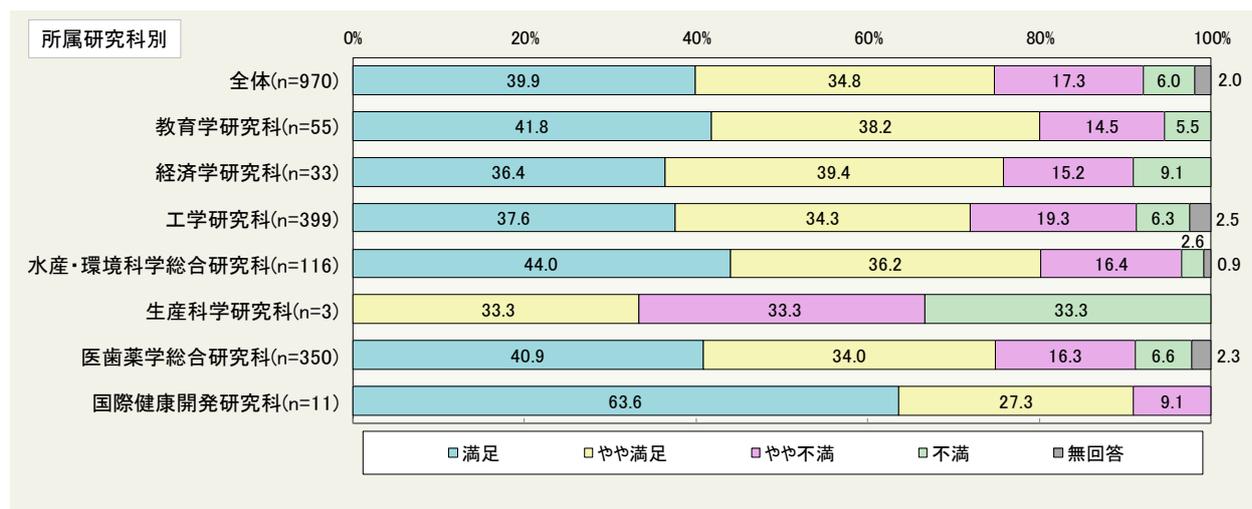
この設問で、「やや不満」「不満」と回答した人を対象に、その理由を自由意見で聴取、複数意見があったのは次のとおりです。

- ・指導教官とのコミュニケーションが不足している。
- ・指導教官が多忙で指導を受ける時間が少ない。
- ・十分な研究時間がない。



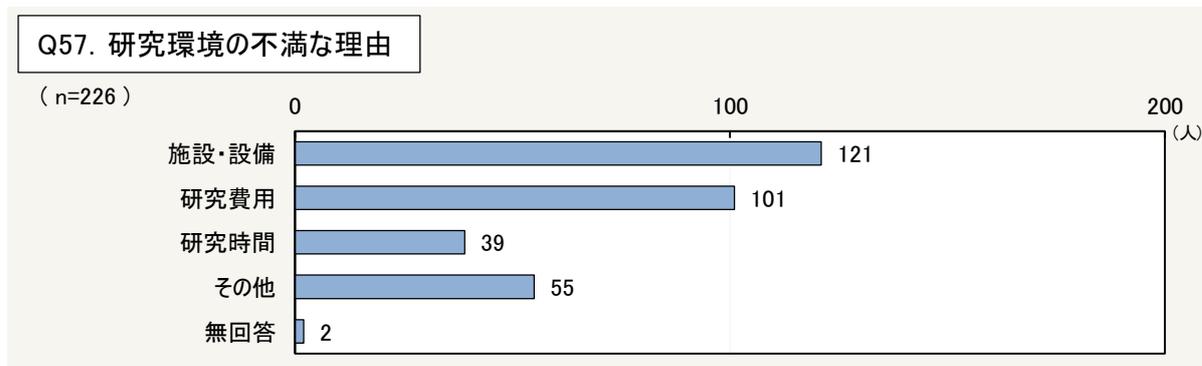
Q56. 現在の研究環境についての満足度は？

さらに、院生の研究環境についての満足度について調べたところ、多くの研究科で「満足」に「やや満足」を加えた割合が 60%を超えています。特に教育学研究科、水産・環境科学総合研究科、医歯薬学総合研究科及び国際健康開発研究科では「満足」が 40%を超えています。



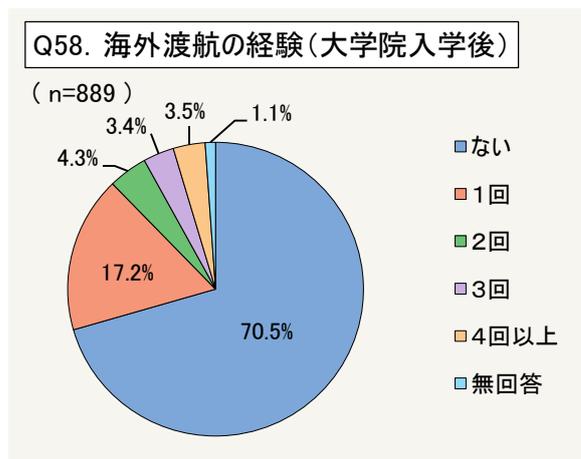
Q57. 【前問で「3.やや不満」「4.不満」を選んだ方】その理由は？【主なもの2つまで回答可】

院生の研究環境への「やや不満」および「不満」についてその理由を調査すると「施設・設備」121名(53.5%)が理由の第1位であり、「研究費用」101名(44.7%)、「研究時間」39名(17.3%)と続いており、前回(それぞれ59.5%、39.2%、17.7%)とほぼ同様の割合となりました。「施設・設備」及び「研究費用」については大学側の改善の努力が必要であると思われます。また、「研究時間」への不満が多い研究科では教員側、学生側双方の努力が必要ではないかと考えられます。今回の調査では「その他」55名(24.3%)と回答した院生が、比較的多い結果(前回20.9%)となっています。「その他」に含まれる理由についてはもっと細かな分析が必要かもしれません。



Q58. 【日本人の方】大学院入学後、海外渡航したことがありますか？

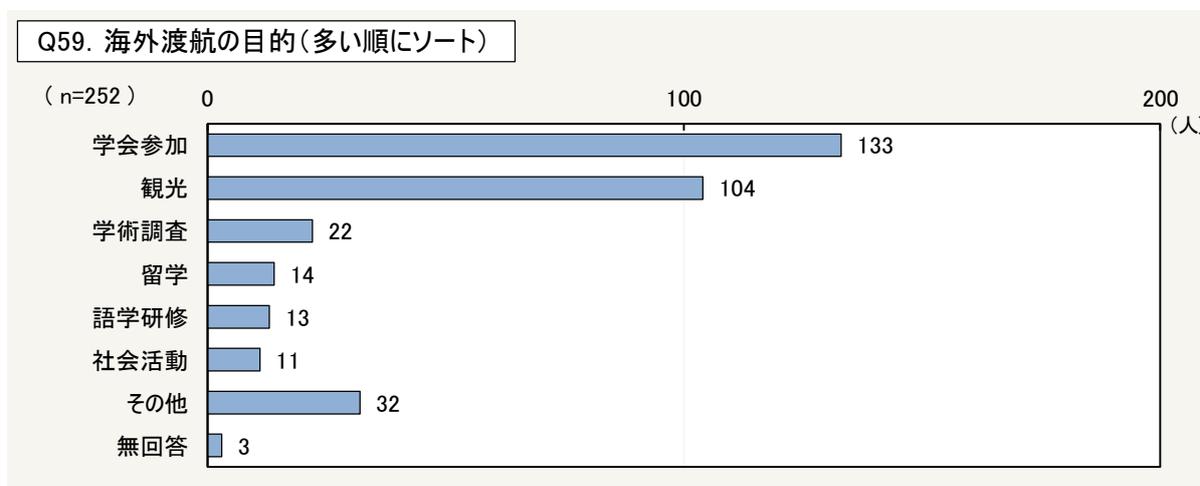
全体の70.5%が海外渡航の経験が「ない」と答えており、前回(60.8%)と比べると増えていることがわかります。海外渡航をしたことのある学生は、合計で全体の約3割(28.3%)という結果でした。



Q59. 【前問で「2」「3」「4」「5」(海外渡航経験がある)を選んだ方】海外渡航の目的はどれでしたか？

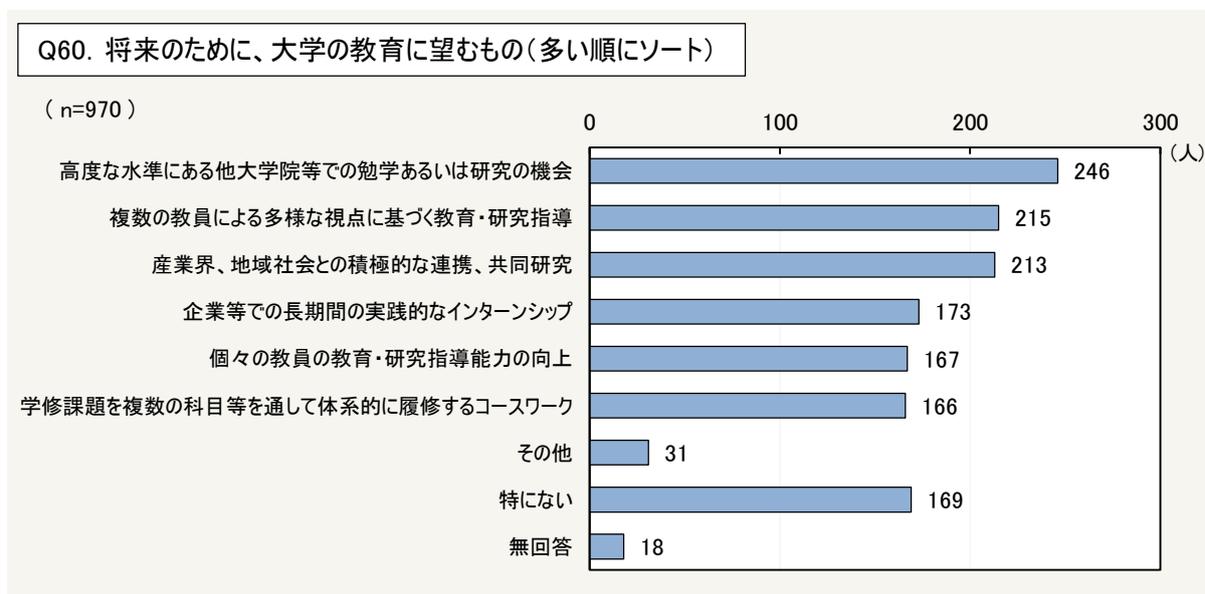
【主なもの2つまで回答可】

海外渡航の目的を調査したところ、「学会参加」が133名(52.8%)と最も多く、研究活動に努力している姿がうかがえます。また、つぎに多いのが「観光」104名(41.3%)となっています。



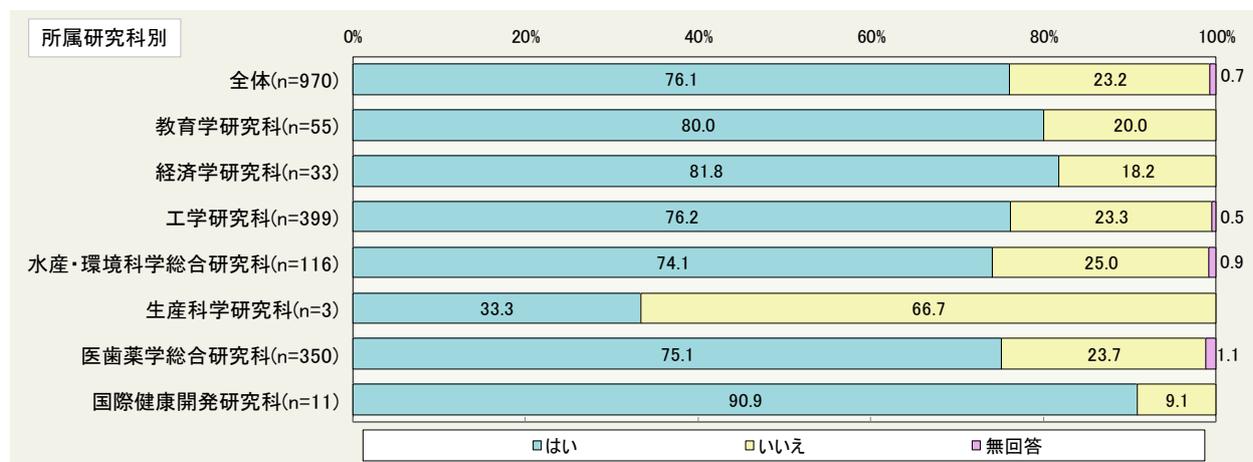
Q60. あなたの将来のために、本学の教育に何を望みますか？【主なもの2つまで回答可】

院生が本学の教育に対して望むものは様々ですが、「高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会」を挙げた人が最も多く、次に「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」、「産業界、地域社会との積極的な連携、共同研究」と続いていることから、多様な視点や、本学での枠を超えた教育環境を望んでいることがわかります。



Q61. 本学内既設のパソコンおよびインターネットの環境について、満足していますか？

研究科ごとのインターネット環境の満足度について、「満足」と答えた人は全体で 76.1%であり(前回 68.0%)、ICT 環境整備に対する努力の結果、その環境が整ってきたことがうかがえます。



Q62. 自宅等で自学自習に利用できるパソコンを持っていますか？ (PC 必携化に関する質問)

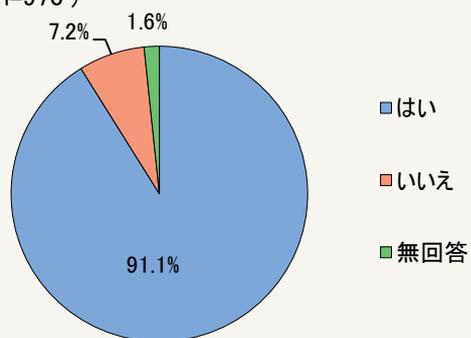
Q63. 次の内、あなたはどれを持っていますか？ (複数回答可)

自宅に利用可能なパソコンを持っている人は全体の 90%を超えています。

ノート PC を持っている学生が 876 名(90.3%)と最も多く、前回(874 名)と同様の結果となりました。そしてスマートフォン所有者は 584 名(60.2%)となり、前回(465 名)と比較し学部生同様大幅に増えています。

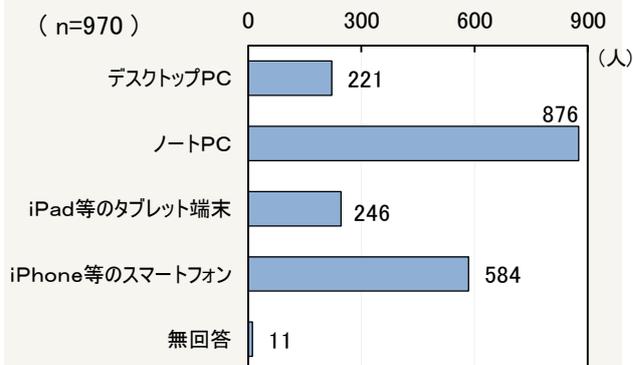
Q62. 自宅等でのパソコン保有

(n=970)



Q63. 持っているもの

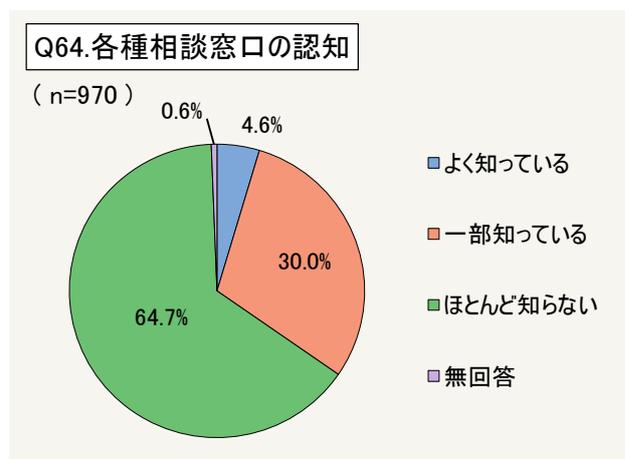
(n=970)



G. 学生相談体制について

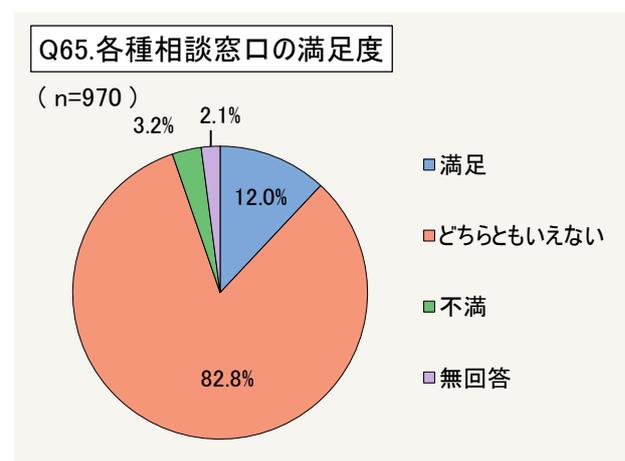
Q64. 各種相談窓口(学生相談体制)について、知っていますか？

学生相談の体制について、「よく知っている」学生が4.6%(前回7.4%)とたいへん少なく、「ほとんど知らない」学生が64.7%(前回61.0%)を占めました。



Q65. 各種相談窓口(学生相談体制)について、満足していますか？

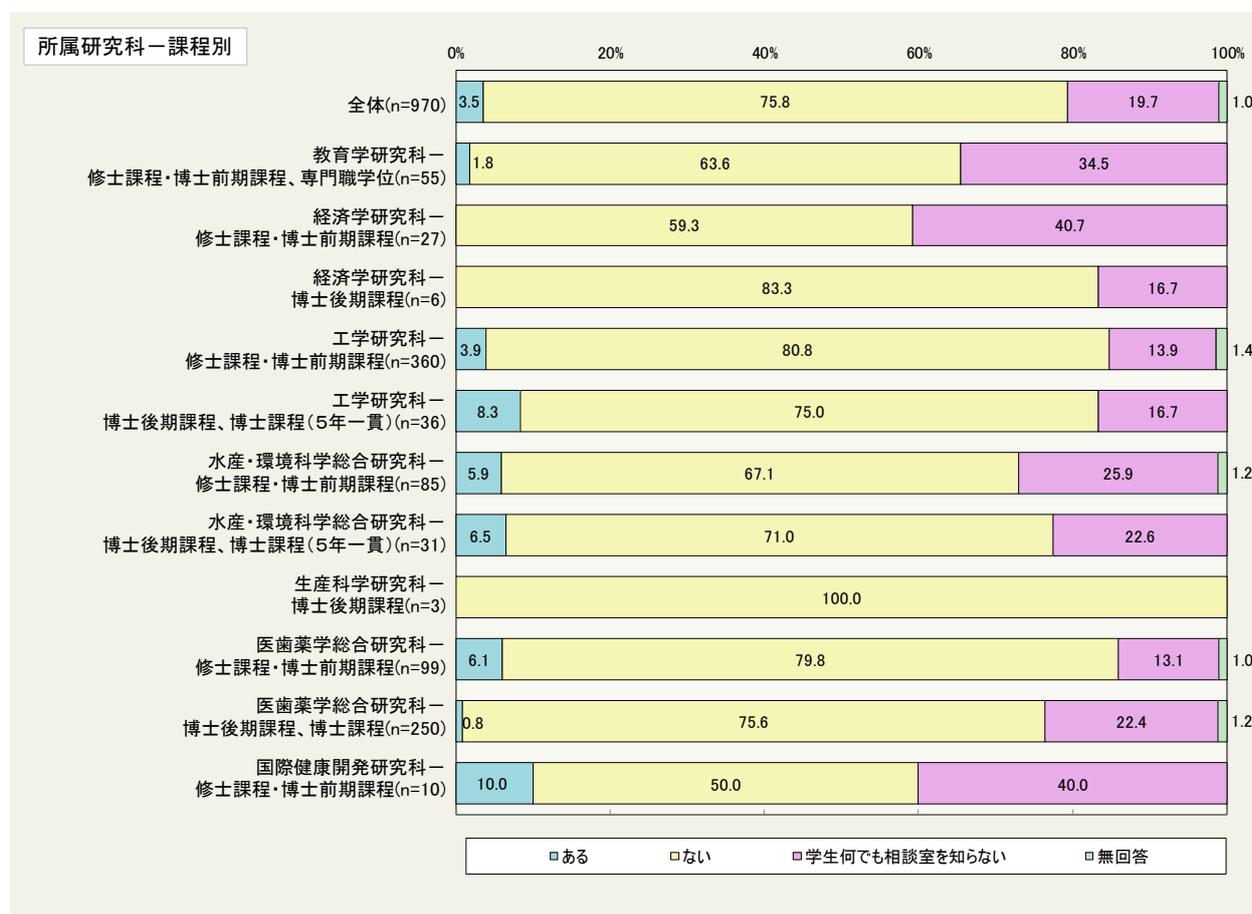
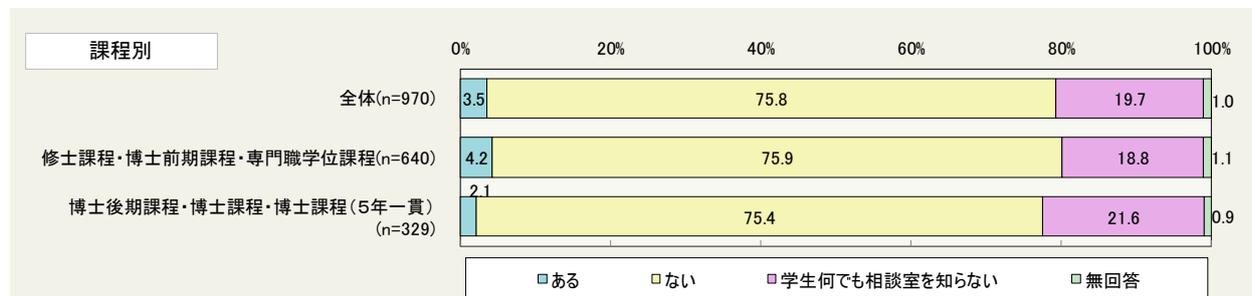
学生相談体制への満足度を質問したところ、「不満」と答えた学生は3.2%に留まりました。



各種相談窓口を「ほとんど知らない」と回答した学生の割合が高いこと、また、満足度についても「どちらともいえない」と回答した学生の割合が高いことから、新入生オリエンテーション等で、より一層の周知徹底が必要です。

Q66. あなたは「学生何でも相談室」を利用したことがありますか？

「学生何でも相談室」の利用を「したことがある」と回答した学生は、全体で 34 名(3.5%)であり、前回の 57 名(5.7%)に引き続き、低い利用率であることがわかります。研究科・課程別に見ると、研究科・課程によって「知らない」と回答した学生の割合に違いが見られ、学生数の少ない(20 名以下)研究科・課程を除くと 13.1%から 40.7%と大きな差がありました。

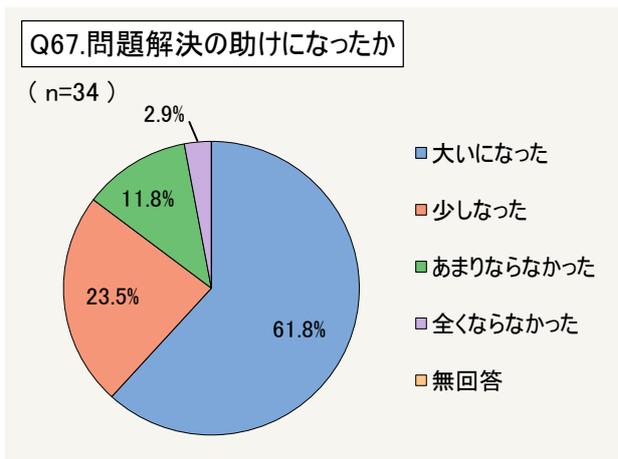


Q67. 【前問で「ある」と答えた方へ】

「学生何でも相談室」への相談はあなたの悩みや問題解決の助けになりましたか？

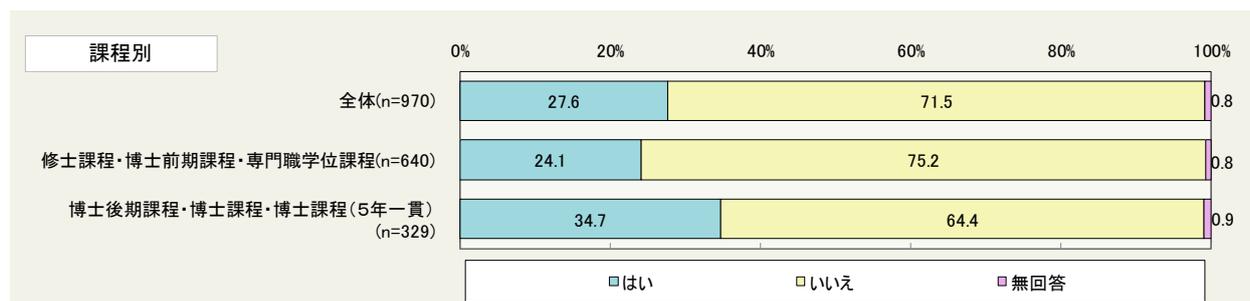
「学生何でも相談室」の利用者の85.3%（「大いになった」「少しなった」と回答しました。利用者には、良い評価をいただいています。

知らない学生が多い一方で、実際の利用によっては問題解決の一助となること示され、今後は積極的な利用をできるよう認知度向上のための活動が必要です。



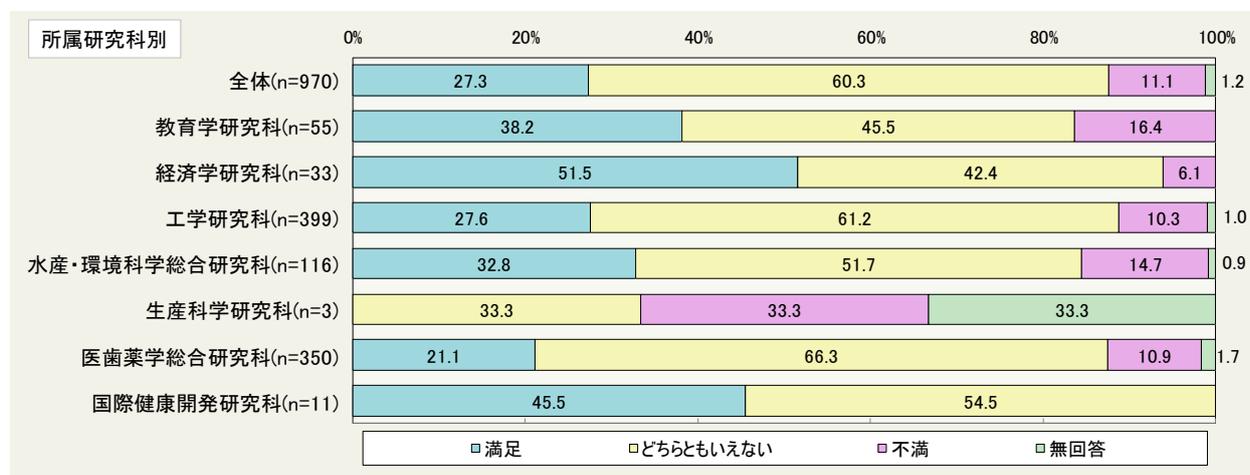
Q68. ハラスメント相談員の制度を知っていますか？

ハラスメント相談員制度を知らない学生は、前回(63.2%)と比較して71.5%と増加しており、依然多くの学生が大学の学生相談の体制について知らないことが判明したことから、学部学生同様、大学院生にもまず知ってもらうことが重要であると考えられます。



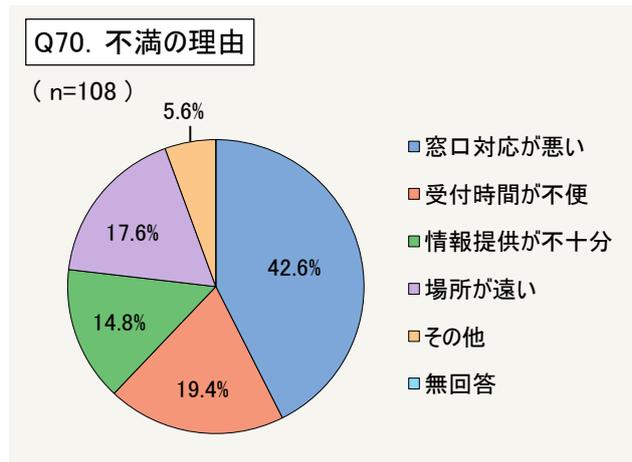
Q69. 窓口サービス(学生支援センター・研究科大学院係等)に満足していますか？

学生支援センターや研究科大学院係等の窓口サービスに「満足している」学生は、前回(41.2%)と比較して27.3%と大きく減少しました。



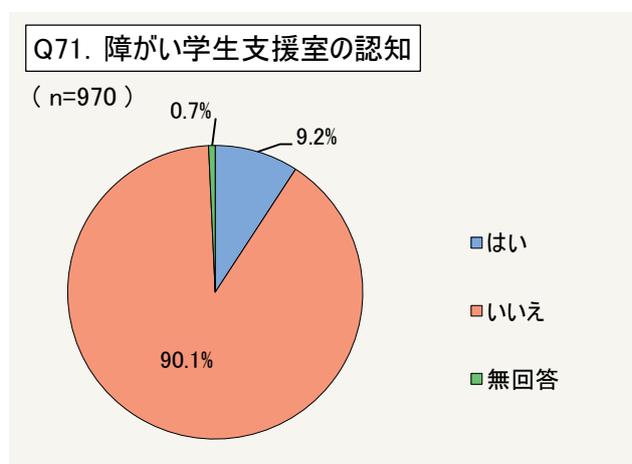
Q70. 【前問で「不満」と答えた方】 その主な理由は？

不満足理由のトップは「対応が悪い」が 42.6%で、前回(44.3%)とほぼ変わらない結果となりました。学生窓口の対応については、今後も全学の窓口のみならず、各研究科の窓口も含めてサービスの質(受付時間、情報提供、場所等)の更なる向上が望まれているようです。



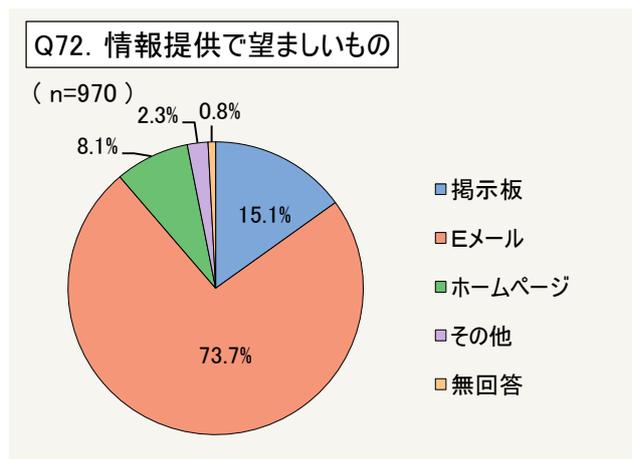
Q71. 障がい学生支援室を知っていますか？

障がい学生支援室の認知について調査したところ、90.1%が「いいえ」と回答していることから、認知度向上にむけた情報提供が必要と言えます。



Q72. 大学からの情報提供はどの方法が望ましいですか？

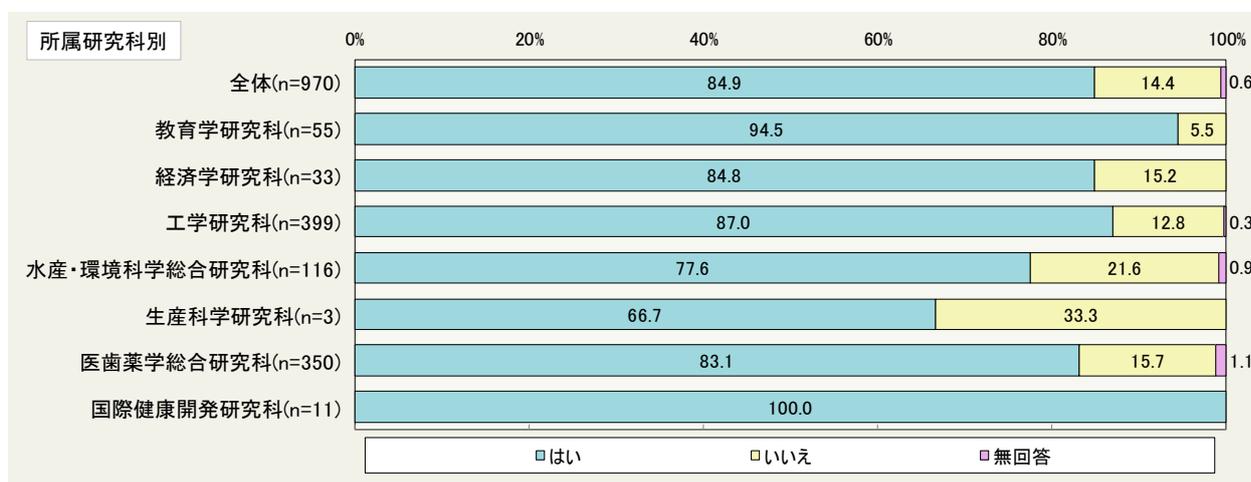
望ましい大学からの情報提供の方法については、「Eメール」が前回(67.6%)より増加、73.7%で最多となりました。次に多い「掲示板」15.1%が前回(17.5%)よりやや減少傾向であることから、Eメールによる情報提供を求めている傾向が伺えます。



H. 大学生活について

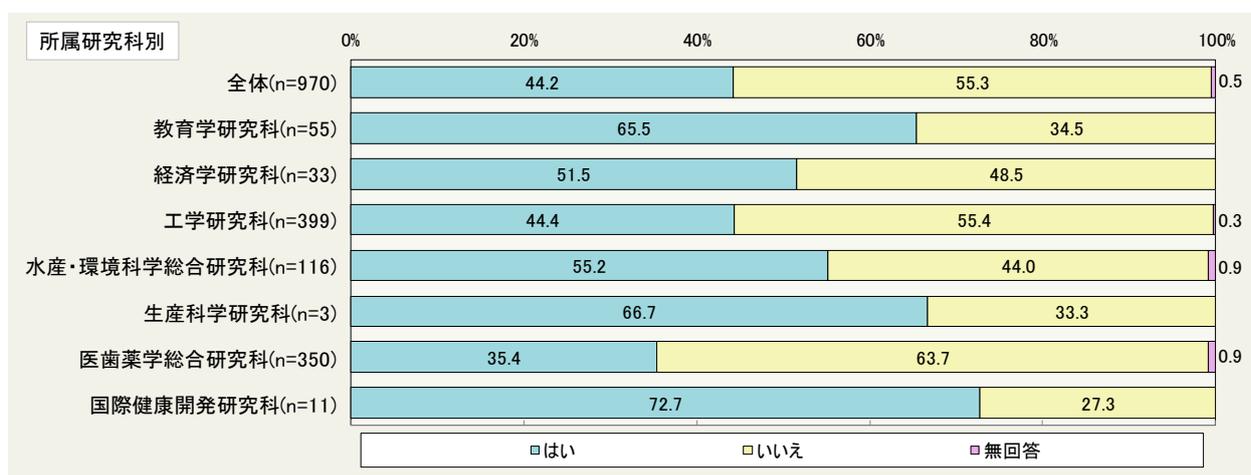
Q73. あなたは悩みを打ちあけることができる友人がいますか？

全体では84.9%(前回85.6%)の学生が「悩みを打ちあけることができる友人がいる」と答えています。研究科別では教育学研究科94.5%(前回92.2%)で高く、水産・環境科学総合研究科77.6%(前回85.1%)でやや低くなっています。



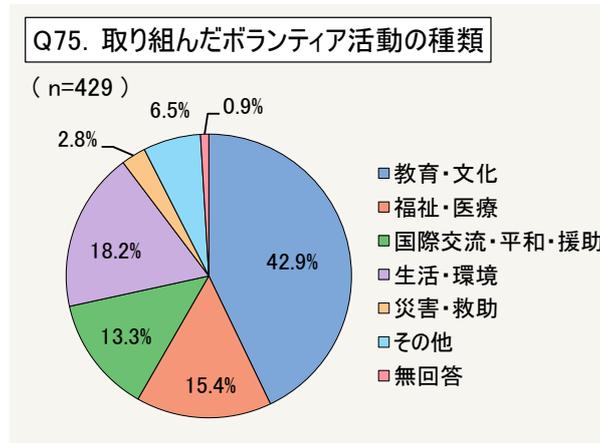
Q74. ボランティア活動に取り組んだことがありますか？

ボランティア活動に取り組んだことがあると回答した学生は、全体で44.2%で、前回(44.8%)とほぼ同じでした。研究科別で見ると、教育学研究科が65.5%と多い一方、「医歯薬学総合研究科」は35.4%で、前回(38.3%)同様低くなっています。



Q75. 【前問で「はい」と答えた方】どのような活動に取り組んだことがありますか？

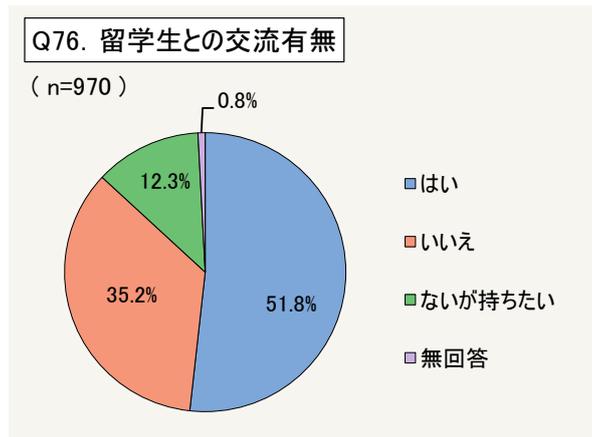
活動内容は「教育・文化」42.9%、「生活・環境」18.2%、「福祉・医療」15.4%、「国際交流・平和・援助」13.3%、「災害・援助」2.8%の順となっています。



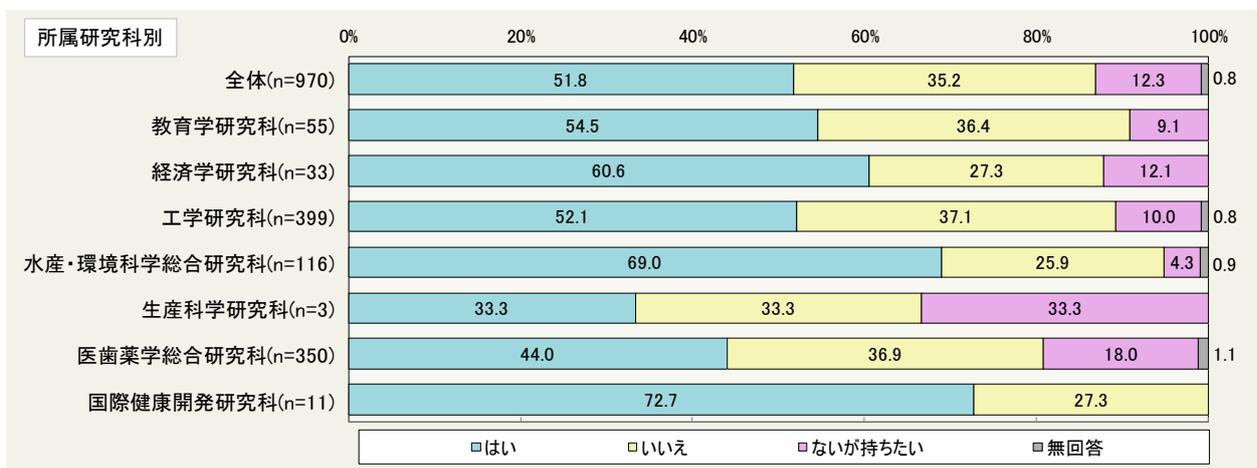
Q76. あなたは本学に所属する留学生と交流を持っていますか？

(日本人の方は留学生との交流、留学生は他国の留学生との交流)

全体では留学生との交流が「ある」が 51.8% (前回 49.3%)、「ない」35.2% (前回 35.2%)、「ないが持ちたい」12.3% (前回 13.5%) であり、前回とほぼ同じ結果となりました。また、交流が「ある」は学部学生 (27.9%) と比較して高い割合になっています。

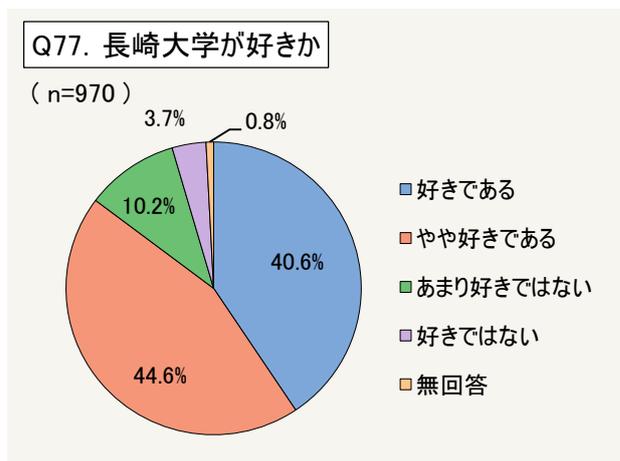


研究科別で見ると、「水産・環境科学総合研究科」が 69.0% と高い一方、「医歯薬学総合研究科」は 44.0% と低くなっています。

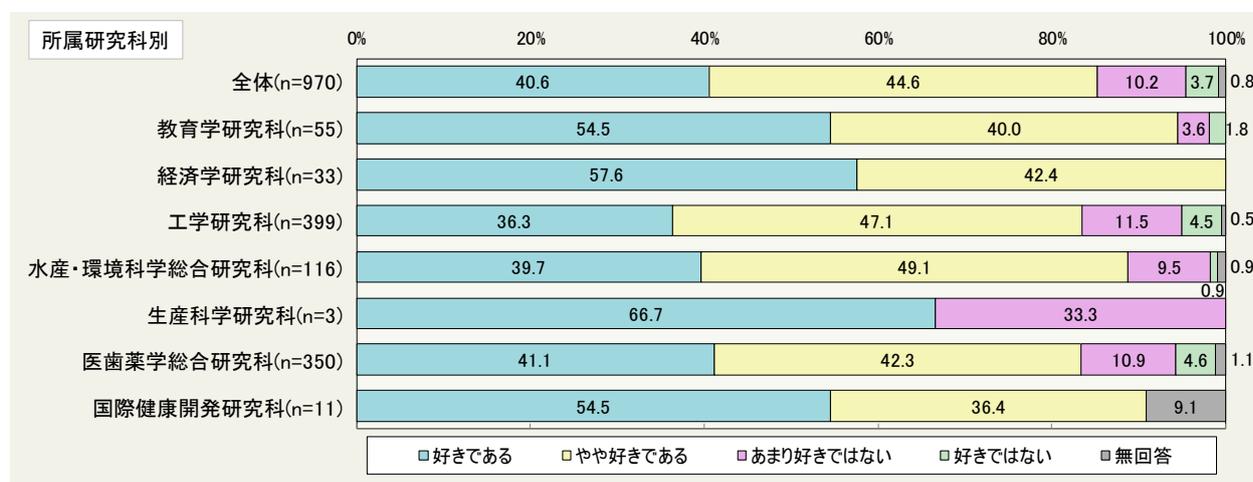


Q77. あなたは長崎大学が好きですか？

「あなたは長崎大学が好きですか？」という問いに対して、「好きである」という学生が 40.6%、「やや好きである」44.6%と答えた学生を合わせると 85.3%となり、「あまり好きではない」10.2%、「好きではない」3.7%を大きく上回っています。

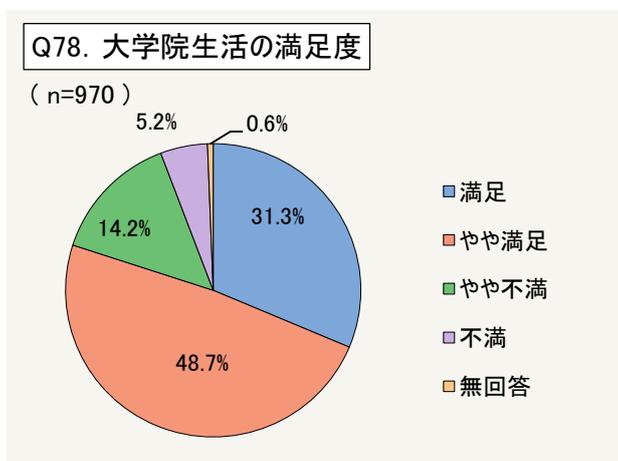


研究科別で見ると、「好きである」「やや好きである」の合計値が最も高いのが、「経済学研究科」100.0%で、「教育学研究科」が 94.5%でそれに続きます。

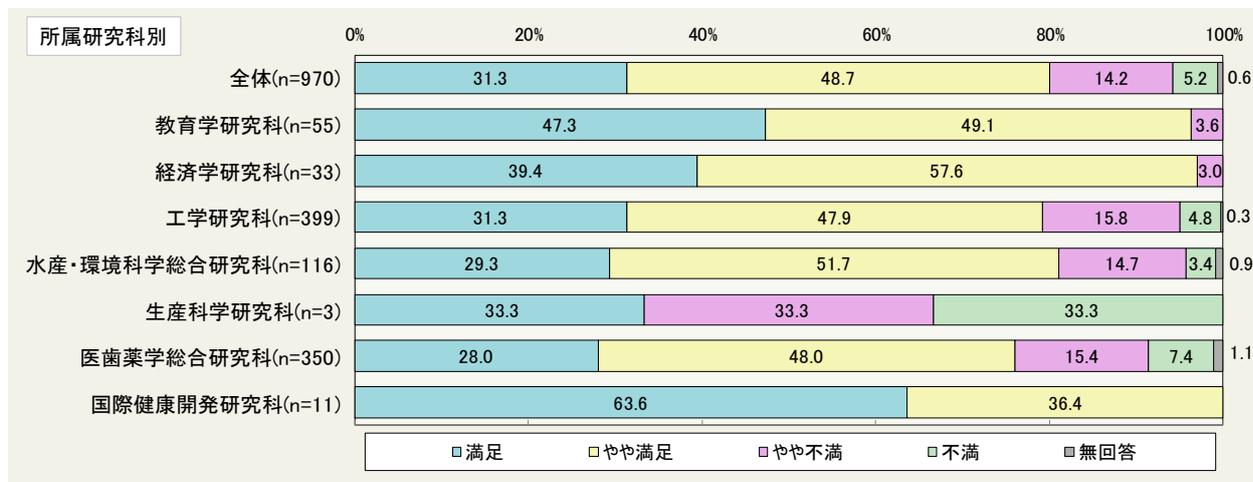


Q78. 現在の大学生生活に満足していますか？

「現在の大学院生活に満足していますか？」という問いに対しては、「満足」「やや満足」の合計値が 80.0%と高く、前問の「好き」「やや好きである」の割合とほぼ合致していることがわかります。



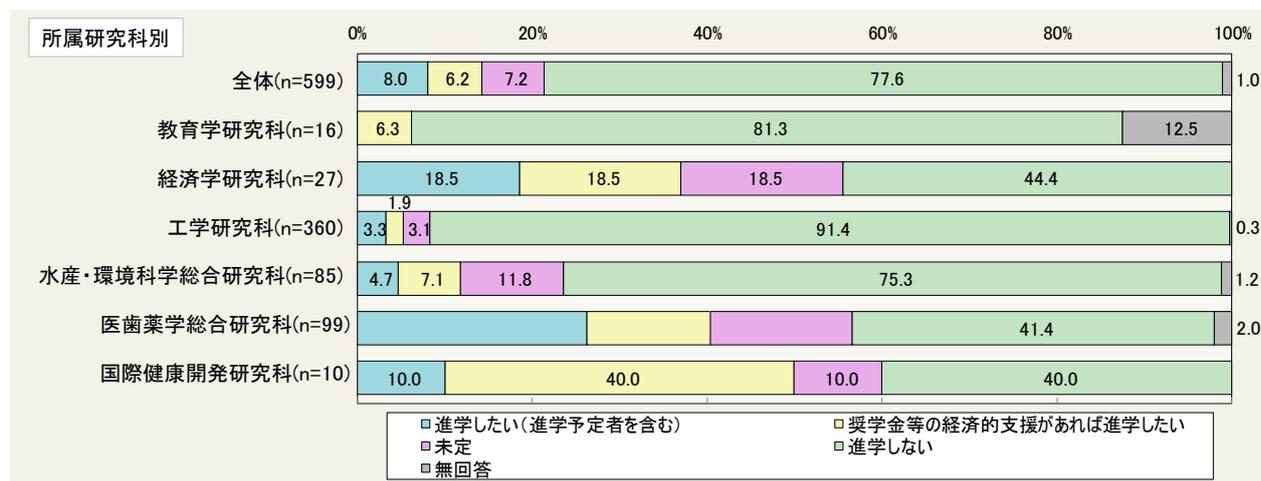
研究科別に見ると、「満足」「やや満足」の合計値は「経済学研究科」97.0%、「教育学研究科」96.4%と9割を超え、高い値を示しています。また、小サンプル(n=11)ながら、国際健康開発研究科も全員が「満足」「やや満足」と答えています。



I. 進路・就職について

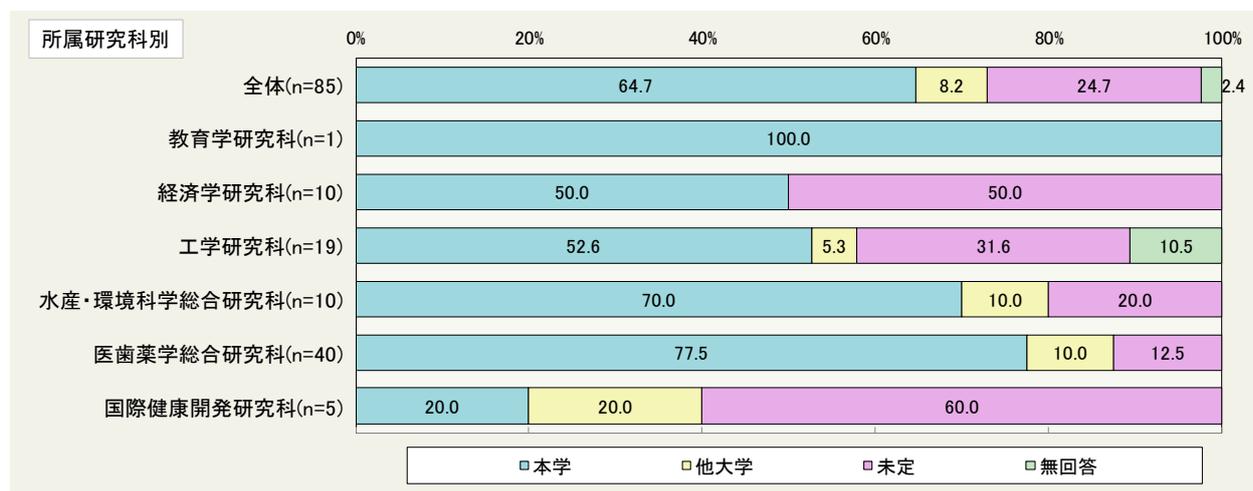
Q79. 【修士課程、博士(前期)課程の方】博士(後期)課程への進学を考えていますか？

「大学院博士後期課程に進学したい」「経済的支援があれば進学したい」と希望する割合が、「経済学研究科」、「医歯薬学総合研究科」などで比較的高いものに対して、「教育学研究科」、「工学研究科」などでは極端に低い結果になりました。前者は、博士後期課程に進学することで研究者になるなどのメリットがあり、後者は博士前期課程修了学生に十分社会のニーズ(就職)があるからと考えられます。



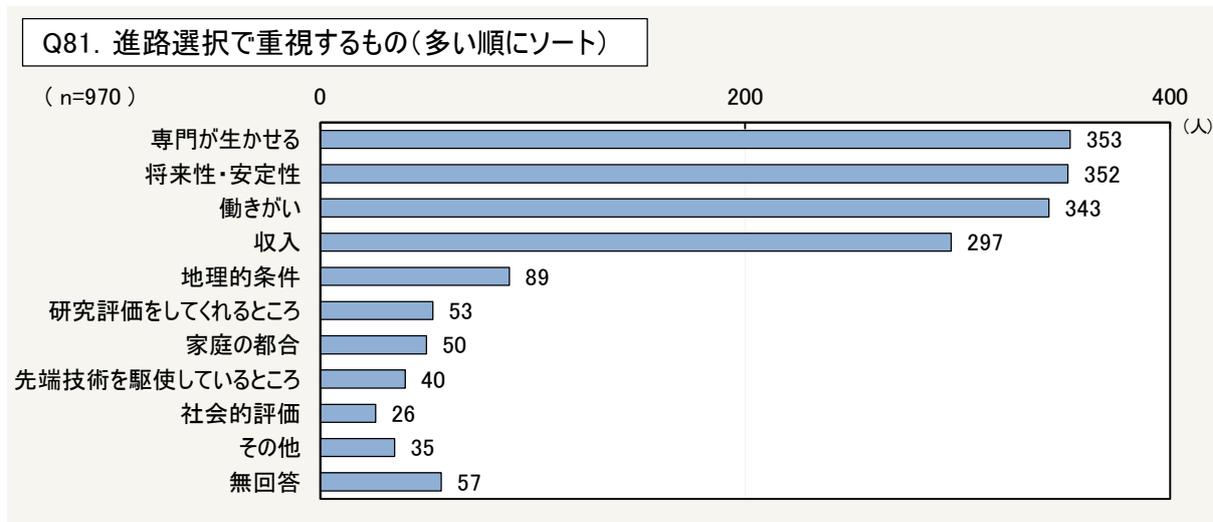
Q80. 【前問で「1.進学したい」「2.経済的支援があれば進学したい」を選んだ方】それは本学ですか？

全体的には進学希望者の大多数(64.7%)が本学を志望していますが、それ以外を志望している学生には学生の興味・メリットをより喚起するような取り組みが必要であると考えられます。



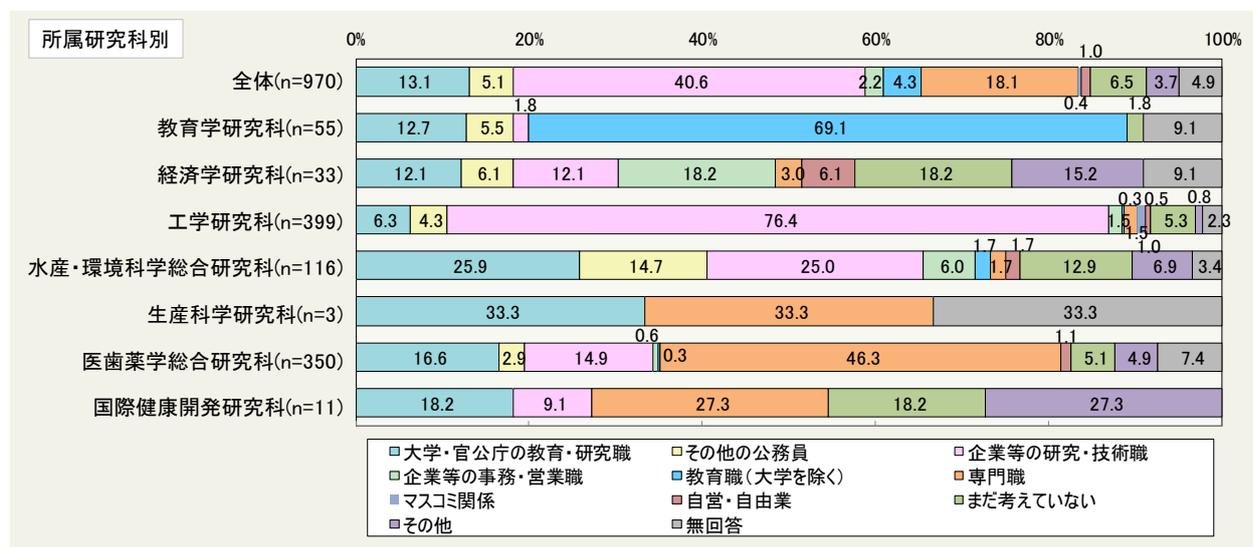
Q81. 進路選択で重視するものは？【主なもの2つまで回答可】

全体でみると、進路において重視するのは「専門性」が353名(36.4%)、「将来性・安定性」が352名(36.3%)、「働きがい」は343名(35.4%)、そして「収入」が297名(30.6%)の順で高く、それぞれ30%を超えています。



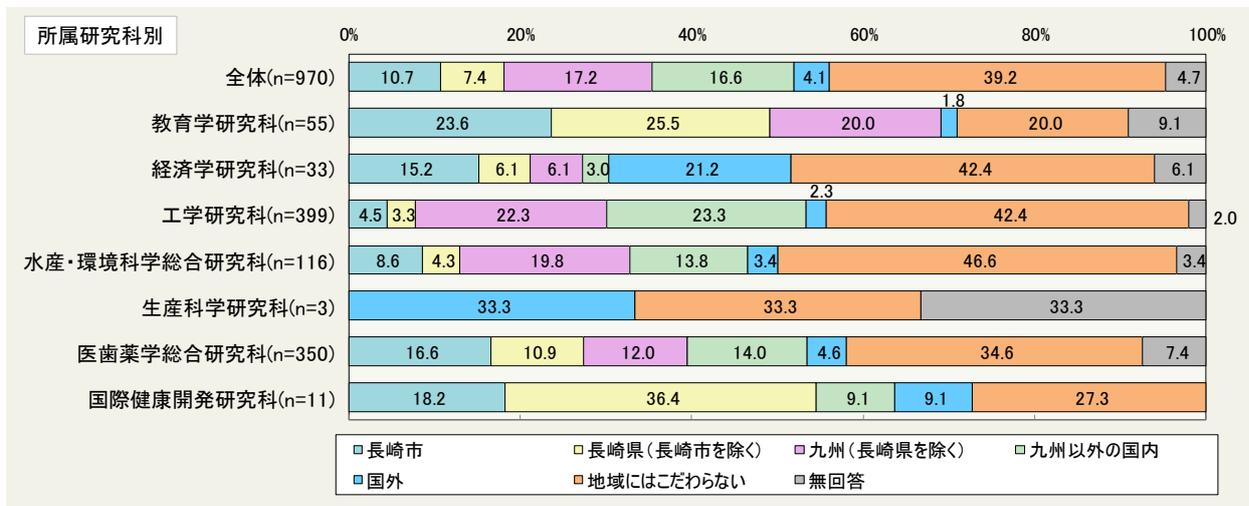
Q82. 希望職種は？

「工学研究科」では、「企業等の研究・技術職を希望する」割合が高く(76.4%)、「医歯薬学総合研究科」と「国際健康開発研究科」などでは国家資格を活かした「専門職」が高い傾向にあります(それぞれ46.3%、27.3%)。また、「水産・環境科学総合研究科」に関しては、「大学・官公庁の教育・研究職」が25.9%と、他の研究科と比べて高いことがわかりました。

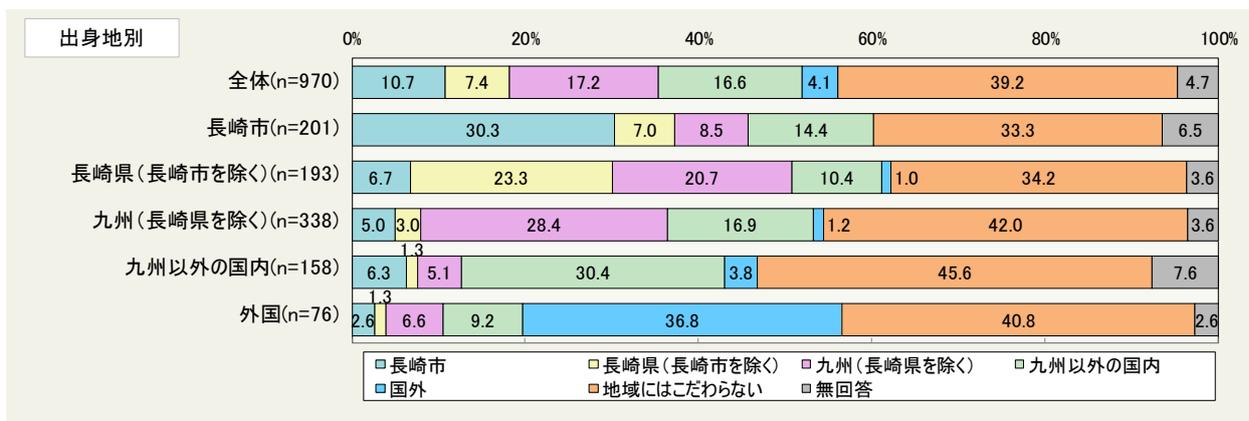


Q83. 就職を希望する地域は？

全体でみると、就職地域についてこだわらない学生の割合が高い(39.2%)結果となりました。しかし、「教育学研究科」では69.1%が「九州圏内」での就職を希望していることがわかります。

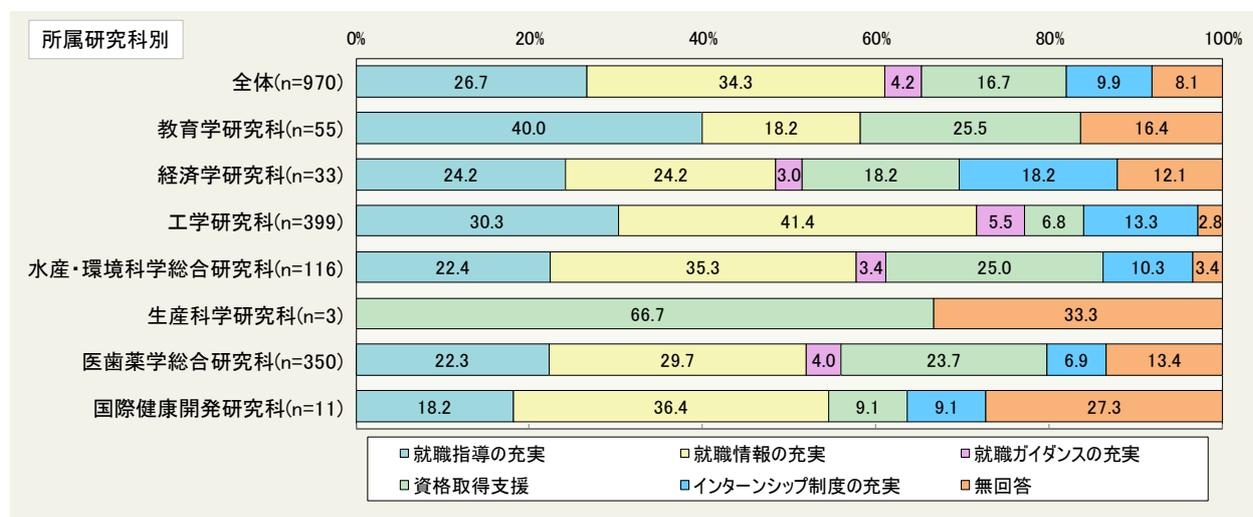


出身地別の割合をしてみると(「地域にはこだわらない」を除いた場合)、「長崎市出身者」は「長崎市への就職を希望」など、それぞれ出身地を中心とした地域志向性が高いことが分かります。



Q84. 就職に関して、大学に最も期待することは？

就職支援に関して大学へ望むこととして、全体では「情報の充実」(34.3%)、「指導の充実」(26.7%)、「資格取得支援」(16.7%)の順で高くなっています。研究科別では多少の違いがあり、教育学研究科では「指導の充実」(40.0%)、工学研究科では「情報の充実」(41.4%)が他の研究科と比べて高い割合を占めています。

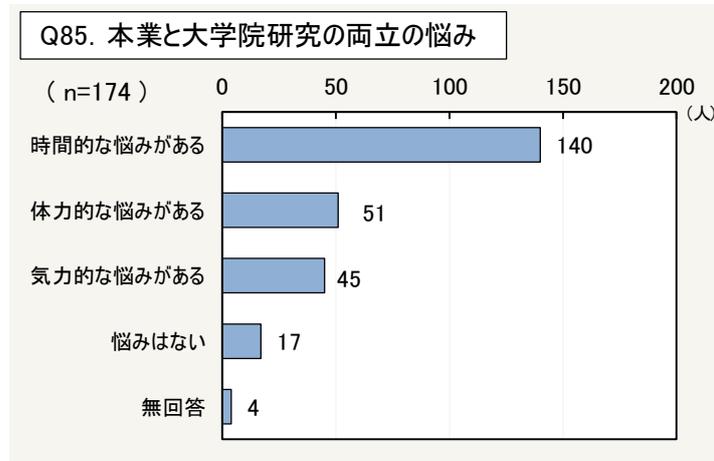


これらを総合すると、前回の集計結果同様、大学院では博士前期課程を修了して博士の学位取得を目指すというよりは、【「将来性・安定性」を重要視して「企業等の研究・技術職」に就職するために、「専門性」を得たいと考えている。】という学生像が浮かび上がります。そのため、資格取得やインターンシップの充実、就職に関する情報獲得や指導などの支援を積極的に求めているようです。一方、優秀な大学院生が本学において博士の学位取得を目指す姿が増えていくためには、前期課程 1 年次の段階で十分魅力ある研究教育体制や将来に関する情報を提供できることが大切なのかもしれません。

【以下社会人大大学院生の方、 n=174】

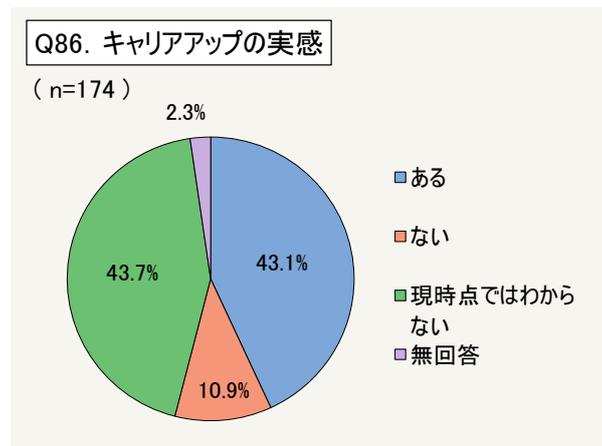
Q85. 本業と大学院の研究との両立についての悩みはありますか？(複数回答可)

本業と大学院の研究との両立についての悩みについては「時間的な悩みがある」が 140 名 (80.5%) で突出しています。



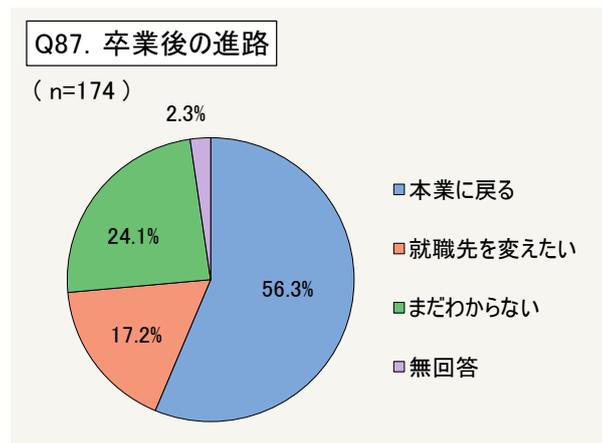
Q86. キャリアアップに繋がっている実感はありますか？

キャリアアップに繋がっている実感については実感が「ある」とした学生が 43.1%いる一方、「現時点ではわからない」と回答した学生も 43.7%と拮抗する結果になりました。



Q87. 卒業後は本業に戻りますか、それともキャリアアップして就職先を変えたいですか？

卒業後の進路については「本業に戻る」が 56.3%と半数を超える結果となりました。



第 13 回

学生生活調査（大学院生）

平成 27 年 9 月
長崎大学学生委員会

調査協力をお願い

学生生活調査は大学が学生の生活状況や要望を把握し、それに基づく支援・改善事項を計画・実行することで学生を取り巻く環境を整備し、学生生活を質的に向上させるために行うものです。

長崎大学では3年前に第12回の調査を実施し、その結果に基づき支援・改善事項を定め対応を行ってきました。その実績については先に掲示版やホームページ (<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/life/topics/life231.html>) で公表していますが、今回はその対応の実績を皆さんに評価していただくことが目的のひとつでもあります。是非調査に回答する前に前回の結果に基づき大学がどのような支援・改善を行ったかを確認のうえ、率直な意見をいただきたいと思えます。

本調査で皆さんから回答いただいた結果は、他の目的に使用することはありません。また、調査は無記名で行いますので、ありのままを正確に教えてください。質問事項が多く回答に時間を要しますが、この調査が皆さんにとってよりよい環境を作るための材料となることをご理解のうえ、ご協力をお願いいたします。

調査実施期間 平成 27 年 9 月 28 日（月）～10 月 9 日（金）

回答上の注意事項

1. 回答はすべて別紙の回答票（マークシート）に記入して下さい。
2. 平成 27 年 10 月 1 日現在での状況について回答して下さい。
3. 質問に対して該当する回答の番号をマークして下さい。用意された回答の中に該当するものがない場合は、あなたの回答に最も近いものを選んで回答して下さい。「2つまで回答可」や「複数回答可」としたのがありますが、それ以外は必ず1つを選んで下さい。
4. 一部の質問事項は、回答をお願いする人を指定してありますので、指定された人のみ回答して下さい。

回答票の提出期限は、平成 27 年 10 月 9 日（金）です。

所属研究科の学務班(大学院係)、あるいはその他の指定されたところへ提出して下さい。

第13回学生生活調査票（大学院）

A 基本事項について

1	あなたの所属研究科は？ 1. 教育学研究科 2. 経済学研究科 3. 工学研究科 4. 水産・環境科学総合研究科 5. 生産科学研究科 6. 医歯薬学総合研究科 7. 国際健康開発研究科 8. 熱帯医学・グローバルヘルス研究科
2	所属課程は？ 1. 修士課程・博士前期課程 2. 専門職学位課程 3. 博士後期課程 4. 博士課程 5. 博士課程(5年一貫)
3	入学年度は？ 1. 平成27年度 2. 平成26年度 3. 平成25年度 4. 平成24年度 5. 平成23年度 6. 平成22年度 7. 平成21年度以前
4	学年は？ 1. 1年 2. 2年 3. 3年 4. 4年 5. 5年
5	性別は？ 1. 男 2. 女
6	学生の区分は？ 1. 一般 2. 社会人 3. 留学生
7	満年齢は？（平成27年10月1日現在） 1. 23歳以下 2. 24歳 3. 25歳 4. 26歳 5. 27歳 6. 28歳 7. 29歳以上
8	出身地は？ 1. 長崎市 2. 長崎県（長崎市を除く） 3. 九州（長崎県を除く） 4. 中国・四国 5. 近畿 6. 中部 7. 関東 8. 東北・北海道 9. 外国

B 生活状況について

9	あなたの住まいは？ 1. 自宅（家族と同居） 2. 下宿・間借 3. 借家・アパート・マンション（家族と別居）・学生寮 4. その他
10	あなたの主な通学方法は？ 1. 徒歩のみ 2. 自転車 3. 原付自転車・自動二輪 4. 自家用自動車 5. 公共交通機関
11	通学の片道時間は？（住居から大学まで） 1. 15分未満 2. 15～30分未満 3. 30～60分未満 4. 60～90分未満 5. 90～120分未満 6. 120分以上

12	あなたの1ヶ月の平均収入額（家計支持者からの援助および奨学金は除く）は？ 1. 3万円未満 2. 3～5万円未満 3. 5～7万円未満 4. 7～10万円未満 5. 10～15万円未満 6. 15～20万円未満 7. 20～25万円未満 8. 25～30万円未満 9. 30万円以上
13	家計支持者からの1ヶ月の援助はいくらありますか？（入学料、入学時のみ支払った納付金および授業料は除く） 1. 全くない 2. 3万円未満 3. 3～5万円未満 4. 5～7万円未満 5. 7～10万円未満 6. 10～15万円未満 7. 15～20万円未満 8. 20万円以上
14	1ヶ月の奨学金（給付・貸与を問わず、学生支援機構、地方公共団体あるいは民間の育英奨学団体等から受けた額）はいくらありますか？ 1. 全くない 2. 3万円未満 3. 3～5万円未満 4. 5～7万円未満 5. 7～10万円未満 6. 10～15万円未満 7. 15～20万円未満 8. 20万円以上
15	現在の経済状況は？ 1. ゆとりがある 2. 普通 3. やや苦しい 4. 大変苦しい
16	奨学金を受けることを希望しますか？ 1. 現在受給中であるが、増額を希望する 2. 現在受給中であるが、引き続き希望する 3. 現在受給していないが、希望する 4. 現在受給していないが、希望もしない
17	TA・RAをしていますか？ 1. 現在している 2. 希望しているが、従事していない 3. 希望しない 4. 制度なし
18	週平均何日大学に来ますか？ 1. 1日 2. 2日 3. 3日 4. 4日 5. 5日 6. 6日以上
19	日平均何時間大学にいますか？ 1. 4時間未満 2. 4～6時間未満 3. 6～8時間未満 4. 8～10時間未満 5. 10～12時間未満 6. 12時間以上
20	現在、アルバイトをしていますか？（TA・RAを除く） 1. はい 2. いいえ
21	【前問で「はい」と答えた方】週平均従事日数は？ 1. 1日 2. 2日 3. 3日 4. 4日 5. 5日以上

22	<p>【設問 20 で「はい」と答えた方】週平均従事時間は？（移動に要する時間も含む。）</p> <p>1. 5 時間未満 2. 5～10 時間未満 3. 10～15 時間未満 4. 15～20 時間未満 5. 20～25 時間未満 6. 25 時間以上</p>
23	<p>【設問 20 で「はい」と答えた方】アルバイトの主な職種は？</p> <p>1. 家庭教師 2. 塾・予備校講師 3. 一般事務 4. 調査・技術 5. 販売サービス 6. 特殊技能 7. 重労働・危険作業 8. その他</p>
24	<p>【設問 20 で「はい」と答えた方】アルバイトをする目的は？【主なもの 2 つまで回答可】</p> <p>1. 家庭の経済的負担を軽減するため 2. 学業を継続するため 3. 小遣・臨時の支出のため 4. 家族からできるだけ自立したいため 5. 社会経験のため</p>

33	<p>【前問で「はい」と答えた方】止める工夫や努力をしていますか？</p> <p>1. 特に工夫をしなくとも止めることができる 2. 止めようとしているが止めることができない 3. 禁煙のための外来を受診したい</p>
34	<p>現在悩みや不安がありますか？</p> <p>1. 特にない 2. 多少あるが問題ない 3. ある</p>
35	<p>【前問で「ある」と答えた方】悩みや不安は主にどんなことについてですか？</p> <p>1. 勉学 2. 経済事情 3. 交友関係 4. 異性問題 5. 身体的不調 6. 家族との関係 7. 就職 8. 課外活動 9. 政治・社会問題 10. 自分の性格 11. 人生観 12. 大学・研究科があわない 13. その他</p>
36	<p>悩みや不安の程度は？</p> <p>1. 深刻である 2. 軽度である 3. 分からない</p>

C 健康について

25	<p>現在の健康状態は？</p> <p>1. 健康 2. おおむね健康 3. やや不健康 4. 不健康</p>
26	<p>【前問で「やや不健康」又は「不健康」と答えた方】その主な理由は？</p> <p>1. 運動不足 2. 睡眠不足 3. かたよった食事 4. 不規則な食生活 5. 課外活動による過労 6. アルバイトによる過労 7. 勉学による過労 8. 精神的な悩みや不安 9. 遊びすぎ 10. その他</p>
27	<p>日頃、健康上心掛けている事柄は？</p> <p>1. 運動する 2. 食事に注意 3. 規則正しい生活 4. あまり気につけない 5. その他</p>
28	<p>1 日の平均睡眠時間は？</p> <p>1. 5 時間未満 2. 5～ 3. 6～ 4. 7～ 5. 8～ 6. 9～ 7. 10 時間以上</p>
29	<p>平日平均して何時頃に起床していますか？</p> <p>1. 午前 8 時前 2. 午前 8～10 時 3. 午前 10～12 時 4. それ以降 5. 不規則でわからない</p>
30	<p>朝食を摂っていますか？</p> <p>1. ほとんど毎日 2. 時々 3. 摂らない</p>
31	<p>たばこを吸いますか？</p> <p>1. 吸わない 2. 1～10 本/日 3. 11～20 本/日 4. 21 本以上/日</p>
32	<p>【前問で「吸う」と答えた方】たばこを止めたいと思っていますか？</p> <p>1. はい 2. いいえ</p>

D 福利厚生施設について

37	<p>福利厚生施設の中で、あなたが利用したことがある施設は？【複数回答可】</p> <p>1. 学生会館(文教) 2. 大学食堂(文教) 3. 生協売店(文教) 4. 理・美容室(文教) 5. 扶揺会館(片淵) 6. 医学部福利厚生施設 7. 歯学部福利厚生施設 8. 子々川臨海研修所 9. 島原共同研修センター 10. 特になし</p>
38	<p>福利厚生施設の中で、あなたが改善を希望する施設は？【複数回答可】</p> <p>1. 学生会館(文教) 2. 大学食堂(文教) 3. 生協売店(文教) 4. 理・美容室(文教) 5. 扶揺会館(片淵) 6. 医学部福利厚生施設 7. 歯学部福利厚生施設 8. 子々川臨海研修所 9. 島原共同研修センター 10. 特になし</p>
39	<p>あなたがいつも利用する学内の食堂(大学食堂)について、満足していますか？</p> <p>1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満</p>
40	<p>【前問で「不満」又は「どちらともいえない」と答えた方】何を改善すればよいと考えますか？</p> <p>1. 混雑 2. 待ち時間 3. メニュー 4. 味 5. 雰囲気 6. 値段 7. その他</p>
41	<p>あなたがいつも利用する学内の生協売店について、満足していますか？</p> <p>1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満</p>
42	<p>あなたが所属する研究科にある談話室等について、満足していますか？</p> <p>1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満</p>

E キャンパス全般について

43	<p>屋外の環境について、所属する研究科キャンパスの屋外環境については？【主なもの2つまで回答可】</p> <p>1. 満足している 2. 敷地が狭い 3. 休憩する場所がない 4. うるさい 5. 清潔でない 6. その他</p>
44	<p>キャンパス内の交通面での安全について(複数回答可)</p> <p>1. 車の事故に遭ったことがある 2. 自転車の事故に遭ったことがある 3. 車を危ないと感じることがある 4. 自転車を危ないと感じることがある 5. 危ないと感じることはない</p>
45	<p>キャンパス内の治安(迷惑行為)について</p> <p>1. 日中にも危ないと感じることがある 2. 夜間・休日は危ないと感じることがある 3. 危ないと感じることはない</p>
46	<p>キャンパス内の迷惑行為について、どれに当てはまりますか？(複数回答可)</p> <p>1. 不審者に遭遇した 2. のぞき・盗撮の被害に遭った 3. 盗難の被害に遭った 4. 強引な勧誘に遭った 5. その他被害に遭った 6. 自分は遭ったことはないが、友人が被害に遭った 7. 被害に遭ったこともなく、話を聞いたこともない</p>
47	<p>駐輪場について満足していますか？</p> <p>1. はい 2. いいえ 3. 利用していない</p>
48	<p>研究棟(研究室・トイレ)について満足していますか？(複数回答可)</p> <p>1. 満足している 2. 研究室に不満がある 3. トイレに不満がある</p>
49	<p>附属図書館(分館等を含む)および電子ジャーナル・データベースの利用について、週平均何時間くらい利用していますか？</p> <p>1. ほとんど利用しない 2. 30分未満 3. 30分～ 4. 1時間～ 5. 5時間～ 6. 10時間～ 7. 15時間以上</p>
50	<p>附属図書館の利用目的は？【主なもの2つまで回答可】</p> <p>1. 図書 2. 雑誌・新聞 3. 辞書・事典 4. パソコン 5. 電子ジャーナル・データベース 6. 文献複写の入手 7. 所蔵検索及び文献調査 8. 試験勉強 9. 論文作成 10. その他</p>

51	<p>附属図書館で最も改善を希望することは？【主なもの2つまで回答可】</p> <p>1. 図書の充実 2. 雑誌・新聞の充実 3. 辞書・事典の充実 4. 電子ジャーナル・データベースの充実 5. 閲覧席の充実 6. パソコンの充実 7. 貸出冊数の増加 8. 貸出時間の延長 9. 開館時間の延長 10. その他</p>
52	<p>キャンパス内の禁煙・分煙対策に満足していますか？</p> <p>1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満</p>

F 入学・修学について

53	<p>大学院で勉強することにより、あなたの目指すものは何ですか？</p> <p>1. 高度な専門的知識・能力を持つ、職業人 2. 創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ、研究者 3. 確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた、大学教員 4. 知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人 5. その他</p>
54	<p>授業以外の自分で行う研究活動は一日平均何時間ですか？</p> <p>1. 30分未満 2. 30～90分未満 3. 90分～5時間未満 4. 5～10時間未満 5. 10時間以上</p>
55	<p>あなたは研究指導に対して満足していますか？</p> <p>1. 満足 2. やや満足 3. やや不満 4. 不満 注：「3」「4」を選んだ方は、回答票の自由記述欄に理由を書いてください。</p>
56	<p>現在の研究環境についての満足度は？</p> <p>1. 満足 2. やや満足 3. やや不満 4. 不満</p>
57	<p>【前問で「3」「4」を選んだ方】その理由は？【主なもの2つまで回答可】</p> <p>1. 施設・設備 2. 研究費用 3. 研究時間 4. その他</p>
58	<p>【日本人の方】大学院入学後、海外渡航したことがありますか？</p> <p>1. ない 2. 1回 3. 2回 4. 3回 5. 4回以上</p>
59	<p>【前問で「2」「3」「4」「5」を選んだ方】海外渡航の目的はどれでしたか？【主なもの2つまで回答可】</p> <p>1. 留学 2. 語学研修 3. 学会参加 4. 学術調査 5. 社会活動 6. 観光 7. その他</p>

60	<p>あなたの将来のために、本学の教育に何を望みますか？【主なもの2つまで回答可】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修するコースワーク 2. 複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導 3. 企業等での長期間の実践的なインターンシップ 4. 高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会 5. 産業界、地域社会との積極的な連携、共同研究 6. 個々の教員の教育・研究指導能力の向上 7. その他 8. 特にない
61	<p>本学内既設のパソコンおよびインターネットの環境について、満足していますか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はい 2. いいえ
62	<p>自宅等で自学自習に利用できるパソコンを持っていますか？（PC 必携化に関する質問）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はい 2. いいえ
63	<p>次の内、あなたはどれをもっていますか？（複数回答可）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デスクトップPC 2. ノートPC 3. iPad 等のタブレット端末 4. iPhone 等のスマートフォン

G 学生相談体制について

64	<p>各種相談窓口（学生相談体制）について、知っていますか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. よく知っている 2. 一部知っている 3. ほとんど知らない
65	<p>各種相談窓口（学生相談体制）について、満足していますか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満
66	<p>あなたは「学生何でも相談室」を利用したことがありますか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ある 2. ない 3. 学生何でも相談室を知らない
67	<p>【前問で「ある」と答えた方】 「学生何でも相談室」への相談はあなたの悩みや問題の解決の助けになりましたか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大いになった 2. 少しなった 3. あまりならなかった 4. 全くならなかった
68	<p>ハラスメント相談員の制度を知っていますか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はい 2. いいえ
69	<p>窓口サービス（学生支援センター・研究科大学院係等）に満足していますか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 満足 2. どちらともいえない 3. 不満

70	<p>【前問で「不満」と答えた方】 その主な理由は？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 窓口対応が悪い 2. 受付時間が不便 3. 情報提供が不十分 4. 場所が遠い 5. その他
71	<p>障がい学生支援室を知っていますか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はい 2. いいえ
72	<p>大学からの情報提供はどの方法が望ましいですか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 掲示板 2. Eメール 3. ホームページ 4. その他

H 大学生活について

73	<p>あなたは悩みをうちあけることができる友人がいますか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はい 2. いいえ
74	<p>あなたはボランティア活動に取り組んだことがありますか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はい 2. いいえ
75	<p>【前問で「はい」と答えた方】どのような活動に取り組んだことがありますか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・文化 2. 福祉・医療 3. 国際交流・平和・援助 4. 生活・環境 5. 災害・救助 6. その他
76	<p>あなたは本学に所属する留学生と交流を持っていますか？（日本人の方は留学生との交流、留学生は他国の留学生との交流）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はい 2. いいえ 3. ないが持ちたい
77	<p>あなたは長崎大学が好きですか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 好きである 2. やや好きである 3. あまり好きではない 4. 好きではない
78	<p>現在の大学院生活に満足していますか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 満足 2. やや満足 3. やや不満 4. 不満

I 進路・就職について

79	<p>【修士課程、博士（前期）課程の方】 博士（後期）課程への進学を考えていますか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 進学したい（進学予定者を含む） 2. 奨学金等の経済的支援があれば進学したい 3. 未定 4. 進学しない
80	<p>【前問で「1」「2」を選んだ方】 それは本学ですか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学 2. 他大学 3. 未定

81	<p>進路選択で重視するものは？</p> <p>【主なもの2つまで回答可】</p> <p>1. 専門が活かせる 2. 働きがい 3. 将来性・安定性 4. 収入 5. 地理的条件 6. 家庭の都合 7. 社会的評価 8. 研究評価をしてもらえるところ 9. 先端技術を駆使しているところ 10. その他</p>
82	<p>希望職種は？</p> <p>1. 大学・官公庁の教育・研究職 2. 1以外の公務員 3. 企業等の研究・技術職 4. 企業等の事務・営業職 5. 教育職（大学を除く） 6. 専門職（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、 公認会計士等） 7. マスコミ関係 8. 自営・自由業 9. まだ考えていない 10. その他</p>
83	<p>就職を希望する地域は？</p> <p>1. 長崎市 2. 長崎県（長崎市を除く） 3. 九州（長崎県を除く） 4. 九州以外の国内 5. 国外 6. 地域にはこだわらない</p>
84	<p>就職に関して、大学に最も期待することは？</p> <p>1. 就職指導の充実 2. 就職情報の充実 3. 就職ガイダンスの充実 4. 資格取得支援 5. インターンシップ制度の充実</p>
85	<p>【以下社会人大学院生の方】</p> <p>本業と大学院の研究との両立について悩みはありますか？</p> <p>（複数回答可）</p> <p>1. 時間的な悩みがある 2. 体力的な悩みがある 3. 気力的な悩みがある 4. 悩みはない</p>
86	<p>キャリアアップに繋がっている実感はありますか？</p> <p>1. ある 2. ない 3. 現時点ではわからない</p>
87	<p>卒業後は本業に戻りますか、それともキャリアアップして就職先を変えたいですか？</p> <p>1. 本業に戻る 2. 就職先を変えたい 3. まだわからない</p>

調査の組織

長崎大学学生委員会に所属する組織として、下記の学生生活調査専門委員会を平成 27 年 4 月に発足させ、作業にあたりました。

* 学生生活調査専門委員会委員一覧

区分	氏名	部 局	職名
学生委員会委員長	堀内 伊吹	副学長 教育学部	教授
委員長	井上 徹志	水産学部	教授
委員	宮下 茂	教育学部	教授
委員	川上 純	医学部	教授
委員	大嶺 聖	工学研究科	教授
委員	藤原 卓	医歯薬学総合研究科 歯学部	教授
	真鍋 義孝		
	原 宜興		
委員	林田 雅希	保健・医療推進センター	准教授
委員	首藤 明和	多文化社会学部	教授
委員	宍倉 学	経済学部	教授
委員	川上 茂	薬学部	教授
委員	長江 真樹	環境科学部	教授
委員	門司 和彦	熱帯医学・グローバルヘルス研究科	教授
委員	中根 秀之	医学部保健学科	教授

あ と が き

ようやく第13回学生生活調査報告書をみなさんにお届けすることができました。学生生活調査専門委員会の立上げからちょうど一年となります。右も左も分からないまま委員長を引受け、質問項目や選択肢の見直しから始めました。今にして思えば、学生生活調査の目的は何なのかという本質的な議論をする余裕がなかったのが残念です。過去の調査との継続性を重視すれば、質問項目を変えたり、削除することが難しくなり、質問項目は増える方向に進んでしまいます。学生からのフィードバックを受け、PDCAサイクルを回して、よりよい学生生活のための支援をするという立場であれば、前回までの質問項目にそれほど縛られる必要もないでしょう。質問項目のあまりの多さに、答える学生側も、取りまとめる教職員側も、目の前の負担にばかり目を奪われて、目的を見失いがちであったことは否めません。学生が生活調査の目的を理解し主体的に取り組むことができる工夫も必要ではないでしょうか。自分たちの大学生活をより充実したものにできる機会として、調査の一部分を質問項目から取りまとめまで学生主導で進めることができれば、そのような仕組みを持つことは大学として評価されることでしょう。

紙媒体によるアンケート調査も今回で最後になるでしょう。国勢調査もインターネットによる回答が可能になった時代です。次回からはインターネットによるアンケートになると思われます。デジタルネイティブという言葉もインパクトを失うほどにインターネットを身近に感じている世代の学生にとって、マークシートとはいえ紙媒体のアンケートはそぐわないものとなっていることでしょう。インターネットの利用によって、学生主導の学生生活調査も現実的なものとなるのではと思います。

調査結果の中で一つ残念に思うのは、学生のためにある相談窓口の認知度の低さです。長崎大学ではいろいろな相談窓口を準備して、学生の相談・支援にあたっています。相談窓口である「学生何でも相談室」や「ピア・サポーター」を利用した学生の8割以上が問題解決の助けになったと答えています。このような窓口があることを知らないと答えた学生が多かったことは大きな問題といえるでしょう。

最後になりますが、調査項目の検討と調査票の作成、報告書の作成を担当していただいた学生生活調査専門委員会の教職員、ならびに調査に関わる膨大な作業を支えていただいた学生支援課のみなさまには、この場を借りて深く感謝申し上げます。

平成28年3月

学生生活調査専門委員会委員長
井上 徹 志

第 13 回学生生活調査報告書

平成 28 年 3 月発行

編 集 長崎大学学生生活調査専門委員会
発 行 長崎大学学生支援部

〒852-8521

長崎市文教町 1 番 14 号

電話 (095) 819-2103



長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY